# Veritas NetBackup™ 53xx Appliance 初期構成ガイド

リリース 3.1.1

VERITAS™

# Veritas NetBackup™ 53xx Appliance 初期構成ガイド

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC.All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェア(「サードパーティプログラム」)が含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供され、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 以下の「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となり、Veritas による納品が内部設置型またはホスト型のサービスのいずれであるかは問いません。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

http://www.veritas.com

## テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

https://my.veritas.com

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせてください。

| | |
|---|---|
| 世界共通（日本を除く） | CustomerCare@veritas.com |
| 日本 | CustomerCare_Japan@veritas.com |

## マニュアル

最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

https://sort.veritas.com/documents

## マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

APPL.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

http://www.veritas.com/community/ja

## ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

# 目次


第 1 章 初期構成の準備 ..... 5

NetBackup 53xx 初期構成のガイドライン ..... 5
構成されていないアプライアンスに対するコマンドの制限 ..... 12
IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて ..... 12
NetBackup Appliance Web Consoleの初期構成ページの概要 ..... 13
NetBackup アプライアンスの初期構成チェックリストについて ..... 24
NetBackup Appliance の初期構成チェックリスト ..... 25
最大伝送単位サイズの設定について ..... 29

第 2 章 初期構成の手順 ..... 30

マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信 ..... 30
NetBackup Appliance Web Consoleを使用して NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスの初期構成を実行する ..... 33
NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスの初期構成を実行する ..... 49
NetBackup 53xx 高可用性構成の設定 ..... 60
NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx 高可用性構成のパートナーノードの初期構成を実行する ..... 65
NetBackup 53xx 高可用性構成へのパートナーノードの追加 ..... 72

第 3 章 構成後の手順 ..... 79

NetBackup アプライアンスでの NIC1 (eth0) ポートの使用について ..... 79
NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード ..... 80
NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理コンソールのダウンロード ..... 83
CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール ..... 84

索引 ..... 88

1

# 初期構成の準備

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup 53xx 初期構成のガイドライン
- IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて
- NetBackup Appliance Web Consoleの初期構成ページの概要
- NetBackup アプライアンスの初期構成チェックリストについて
- 最大伝送単位サイズの設定について

## NetBackup 53xx 初期構成のガイドライン

新しい 53xx アプライアンスの初期構成を実行する前に、次のガイドラインを見直します。

**表 1-1** NetBackup 53xx アプライアンス構成のガイドライン

| パラメータ | 説明 |
|---|---|
| 初期構成時の接続 | アプライアンスの初期構成を実行するときは、接続が切断しないように対策を取る必要があります。初期構成時に接続が切断されると、初期構成に失敗します。<br>次のイベントを避けるように、アプライアンスの構成に使うコンピュータを設定してください。<br>■ コンピュータがスリープになる状態<br>■ コンピュータがシャットダウンしたり、電源が喪失する状態<br>■ コンピュータのネットワーク接続が切断される状態 |

| パラメータ | 説明 |
| --- | --- |
| 必須の名前とアドレス | 構成する前に、次の情報を収集します。<br>■ アプライアンスのネットワーク IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ IP アドレス<br>■ すべてのアプライアンスのネットワーク名<br>■ DNS またはホストの情報<br>**メモ:** DNS が使われる場合は、すべてのアプライアンスとマスターサーバーのネットワーク名が DNS で解決可能であることを確認してください（FQDN と省略名）。<br>DNS を使わない場合は、初期構成のときにアプライアンスに適切なホストエントリを入力していることを確かめてください。<br>■ NetBackup ストレージユニットの名前<br>［ストレージ名 (Storage Name)］フィールドは、メディアサーバーとしてアプライアンスを構成するときにのみ表示されます。デフォルト名を変更することも残すこともできます。<br>**メモ:** ストレージユニット名だけは、メディアサーバーの役割を構成するときにカスタマイズすることができます。<br>ストレージユニットとディスクプールのデフォルト値が以下のように NetBackup 管理コンソールに表示されます。<br>■ AdvancedDisk のデフォルト値<br>デフォルトのストレージユニット名: stu_adv_<hostname><br>デフォルトのディスクプール名: dp_adv_<hostname><br>■ NetBackup 重複排除のデフォルト値<br>デフォルトのストレージユニット名: stu_disk_<hostname><br>デフォルトのディスクプール名: dp_disk_<hostname><br>**メモ:** アプライアンスの短いホスト名は、デフォルトのストレージユニット名およびディスクプール名に常に表示されます。 |
| デフォルトのユーザー名とパスワード | NetBackup の新しいアプライアンスには、次のデフォルトのログインのクレデンシャルが付属しています。<br>■ ユーザー名: admin<br>■ パスワード: P@ssw0rd<br>**メモ:** 初期構成を実行するときに、デフォルトのパスワードを変更する必要はありません。ただし、環境のセキュリティを高めるために、デフォルトのパスワードをすぐに変更することをお勧めします。ベストプラクティスでは、パスワードを定期的に変更する必要があります。現在のパスワードの記録は安全な場所に保管するように徹底してください。 |

| パラメータ | 説明 |
| --- | --- |
| デフォルトのメンテナンスユーザーパスワード | アプライアンスは**メンテナンス**ユーザーアカウントの既知のデフォルトパスワードが設定された状態で提供されます。このパスワードは、アプライアンスのメンテナンスモードに不正にアクセスされないように、初期構成の前または直後に変更してください。なお、アプライアンスのトラブルシューティングサービスが必要な場合に、ベリタステクニカルサポートに**メンテナンス**ユーザーパスワードを知らせる必要があります。<br><br>それぞれの初期構成手順には、デフォルトの**メンテナンス**ユーザーパスワードの変更方法を説明する手順が含まれています。 |
| ファイアウォールポートの使用 | 次のポートがマスターサーバーとメディアサーバーの間にあるあらゆるファイアウォールで開いていることを確かめてください。<br><br>■ 13724 (`vnetd`)<br>■ 13720 (`bprd`)<br>■ 1556 (`PBX`)<br><br>NetBackup と NetBackup アプライアンスのファイアウォールポートについて詳しくは、ベリタスのサポート Web サイトにある次の TechNote を参照してください。<br><br>https://www.veritas.com/support/en_US/article.TECH178855 |

| パラメータ | 説明 |
| --- | --- |
| メディアサーバーの役割 | NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスは、メディアサーバーとしてのみ構成できます。<br><br>このアプライアンスをメディアサーバーとして構成する前に、このアプライアンスで使うマスターサーバーを新しいアプライアンスのメディアサーバー名に更新する必要があります。マスターサーバーが NetBackup Appliance でも従来の NetBackup マスターサーバーでも、新しいアプライアンスメディアサーバーの名前はマスターサーバーの［追加サーバー (Additional Servers)］リストに追加する必要があります。<br><br>新しいアプライアンスを構成する前にマスターサーバーに新しいアプライアンスメディアサーバー名を追加すると、新しいアプライアンスで初期構成を実行するときに次のメリットがあります。<br><br>■ メディアサーバーが NetBackup ドメインの一部になり、適切なネットワーク通信が可能になる。<br>■ メディアサーバーがストレージサーバーとディスクプールエントリを作成できるようになる。<br><br>このアプライアンスをメディアサーバーとして構成するには、アプライアンスでセキュリティ証明書を配備して、マスターサーバーを信頼する必要があります。CA 証明書およびホスト ID ベースの証明書は、このアプライアンスで使用するマスターサーバーから配備する必要があります。マスターサーバーを信頼することを選択した場合、CA 証明書は自動的にダウンロードされ、配備されます。<br><br>ホスト ID ベースの証明書を配備するには<br><br>■ マスターサーバーのセキュリティレベルが［最高 (Very High)］である場合、認証トークンを手動で入力して、ホスト ID ベースの証明書をメディアサーバーに配備する必要があります。<br>■ マスターサーバーのセキュリティレベルが［高 (High)］または［中 (Medium)］である場合、認証トークンは必要ありません。ホスト ID ベースの証明書はメディアサーバーに自動的に配備されます。<br><br>**メモ:** マスターセキュリティレベルに関係なく、アプライアンスに対し出荷時の設定へのリセットまたは再イメージングが実行されると、アプライアンスの再構成時に再発行トークンが必要です。<br><br>セキュリティ証明書がアプライアンスメディアサーバーに配備されている場合、役割の構成中にそれらを再度配備するように要求されることはありません。<br><br>セキュリティ証明書について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup のセキュリティ証明書」の章を参照してください。<br><br>p.30 の「マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信」を参照してください。 |

| パラメータ | 説明 |
| --- | --- |
| 高可用性 | |

| パラメータ | 説明 |
| --- | --- |
| | アプライアンスのリリースバージョン 3.1 以降では、高可用性 (HA) ソリューション用に 53xx シリーズのアプライアンスを配備できます。HA 構成では、計算ノードとパートナーノードとして指定されている 2 台の NetBackup 53xx アプライアンスを使用します。これらのノードは相互に接続し、さらに同じプライマリストレージシェルフの特定のチャネルに接続します。<br><br>NetBackup アプライアンスの HA 構成では、次のようにモデル番号、ハードウェア構成、アプライアンスソフトウェアバージョンが同一である 2 台のアプライアンスを使用する必要があります。<br><br>■ モデル番号とハードウェア構成<br>両方のアプライアンスのモデル番号と I/O 構成が一致する必要があります。たとえば、構成 D の 5330 モデルのアプライアンスを 2 台使用するか、構成 D の 5340 モデルのアプライアンスを 2 台使用します。構成 D の 5330 モデルのアプライアンスを 1 台と構成 D の 5340 モデルのアプライアンスを 1 台使用することはできません。<br>■ Appliance ソフトウェアのバージョン<br>両方のアプライアンスで、同じソフトウェアバージョンを使用する必要があります。使用するアプライアンスのマスターサーバーは、HA アプライアンスと同じソフトウェアバージョンを使用する必要があります。従来の (非アプライアンス) マスターサーバーを使用する場合、アプライアンスソフトウェアバージョンに関連付けられている NetBackup ソフトウェアバージョンを使用する必要があります。たとえば、HA アプライアンスがバージョン 3.1 を使用している場合、従来の NetBackup マスターサーバーは NetBackup バージョン 8.1 を使用する必要があります。<br><br>HA 構成は次のように設定することができます。<br><br>■ 新しいシステムのインストール<br>1 台の NetBackup 53xx アプライアンス (計算ノード) で初期構成を実行してから、同じノードで HA 構成を実行します。次に、もう一方のアプライアンス (パートナーノード) で初期構成を実行します。最後に、構成済みのパートナーノードを追加して、計算ノードの HA 構成を完了します。<br>■ 既存のシステム<br>既存のコンポーネントは、次の手順で最初にアップグレードする必要があります。<br>マスターサーバーの場合は、従来の NetBackup (非アプライアンス) マスターサーバーを NetBackup リリースバージョン 8.1 以降にアップグレードする必要があります。NetBackup アプライアンスマスターサーバーをアプライアンスリリースバージョン 3.1 以降にアップグレードする必要があります。<br>メディアサーバー (既存の 53xx モデル) の場合は、このアプライアンスをリリースバージョン 3.1 以降にアップグレードする必要があります。<br>これらのアップグレードが完了したら、既存の 53xx 計算ノードで HA 構成を設定します。次に、パートナーノードで初期構成を実行します。最後に、パートナーノードを追加して、計算ノードの HA 構成を完了します。<br><br>HA 構成の設定時に、最初に構成したメディアサーバーまたは既存のメディアサーバーのホスト名と IP アドレスが、HA 構成用の仮想ホスト名と IP アドレスとして自動的に再び割り当てられます。このとき、このメディアサーバーに新しいホスト名と IP アドレスを指定する必要があります。<br><br>**メモ:** Active Directory (AD) 認証を使用する場合は、HA 構成のホスト名と IP アドレスで AD サーバーを更新するまで、HA 構成を設定しないでください。HA 構成を設定する前に、AD サーバーで、仮想ホスト名と仮想 IP アドレス、各ノードのホスト名と IP アドレスを指定する必要があります。指定しないと、AD ユーザーがシステムにアクセスする際に問題が発生する可能性があります。 |

| パラメータ | 説明 |
| --- | --- |
| | NetBackup クライアントを使用して NetBackup ジョブを管理する場合、クライアントの bp.conf ファイルに 3 つのホスト名 (2 つのノードのホスト名と新しいホスト名) を追加します。 |
| ディスクストレージオプションのライセンス | アプライアンスには一定期間後に期限切れになる非売品版 (NFR) ライセンスキーが付属しています。アプライアンスはこのライセンスキーがまもなく期限切れになるという警告メッセージを提供しません。したがって、アプライアンスを取り付けて構成した後はこのキーを恒久キーに変更することをお勧めします。ライセンスキーを表示し変更する方法の情報と手順については、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。<br><br>NFR キーは、期限切れになる前に恒久キーと置き換える必要があります。 |
| 最適化された共有の予約のストレージ | Copilot 機能を使用する予定がある場合は、初期構成時に最適化された共有の予約を作成することをお勧めします。最適化された共有の予約は、初期構成の完了後にも作成できます。たとえば、拡張ストレージシェルフを既存または稼働している 53xx アプライアンスに追加する場合です。<br><br>最適化された共有の予約は、次の場合のみに作成できます。<br><br>■ 構成は NetBackup Appliance Shell Menuで行う必要があります。<br>■ アプライアンスハードウェア構成は、拡張ストレージシェルフを少なくとも 1 つ含む必要があります。<br>■ 拡張ストレージシェルフ上のすべてのストレージ領域は、最適化された共有の予約専用に使用される必要があります。予約の最小サイズは 114TB です。<br>■ AdvancedDisk と MSDP パーティションは、異なるシェルフに存在する必要があります。これらは、専用シェルフ上で最適化された共有の予約と共存することはできません。 |
| NetBackup のバージョンの互換性 | NetBackup アプライアンスリリース 3.1.1 には NetBackup バージョン 8.1.1 が含まれます。<br><br>このアプライアンスメディアサーバーに関連するマスターサーバーとクライアントは、次の適切なソフトウェアバージョンを使う必要があります。<br><br>■ アプライアンスのマスターサーバー<br>このアプライアンスメディアサーバーとともに使う予定があるアプライアンスマスターサーバーでは、アプライアンスソフトウェアバージョン 3.1.1 以降を使う必要があります。現在、アプライアンスマスターサーバーで以前のバージョンを使っている場合は、このアプライアンスを構成する前にバージョン 3.1.1 にアップグレードする必要があります。<br>■ 従来の NetBackup マスターサーバー<br>従来の NetBackup マスターサーバーとともにこのアプライアンスメディアサーバーを使うには、マスターサーバーで NetBackup バージョン 8.1.1 以降を使う必要があります。現在、NetBackup マスターサーバーで以前のバージョンを使っている場合は、このアプライアンスを構成する前にバージョン 8.1.1 にアップグレードする必要があります。<br>■ クライアント<br>NetBackup クライアントではアプライアンスと同じか、またはそれ以前のソフトウェアバージョンを使用する必要があります。クライアントはアプライアンスよりも新しいバージョンでは動作できません。たとえば、NetBackup バージョン 8.1.1 のクライアントは、バージョン 3.1.1 以前のアプライアンスサーバーのみで使用できます。クライアントのアドオンもクライアントと同じバージョンにする必要があります。 |

## 構成されていないアプライアンスに対するコマンドの制限

アプライアンスを管理するには、事前に構成しておく必要があります。初期構成に使うコマンドは、新しいアプライアンスまたは出荷時の設定にリセットされたアプライアンスに対してのみ実行できるコマンドです。これらのコマンドを初期構成以外に使うと、予期しない動作または望ましくない動作につながることがあります。この状況を防止するために、Veritasはアプライアンスの初期構成が完了するまで管理コマンドを使わないことをお勧めします。

構成されていないアプライアンスに対して有効なコマンドについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

NetBackup Appliance 初期構成ガイド

NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド

# IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて

NetBackup appliance はデュアルスタック IPv4-IPv6 ネットワークでサポートされ、バックアップとリストアの目的で IPv6 クライアントと通信できます。IPv6 アドレスをアプライアンスに割り当て、DNS を構成し、IPv6 ベースシステムを含めるようにルーティングを構成できます。

NetBackup Appliance Web Consoleまたは NetBackup Appliance Shell Menuを使って IPv4 と IPv6 のアドレス情報を入力できます。

IPv6 アドレスに関する次の注意事項を確認してください。

- NetBackup appliance は、ピュア IPv6 ネットワークをサポートしません。アプライアンス用の IPv4 アドレスを構成する必要があります。構成しない場合、(`hostname set` コマンドを必要とする) 初期構成に失敗します。このコマンドを機能させるには、少なくとも 1 つの IPv4 アドレスが必要です。
  たとえば、特定のホストの `hostname` を v46 に設定するとします。これを実行するには、特定のホストに少なくとも 1 つの IPv4 アドレスがあることを最初に確認し、次のコマンドを実行します。
  ```
  Main_Menu > Network > Hostname set v46
  ```
- 使用できるのはグローバルアドレスのみです。リンクローカルスコープまたはノードローカルスコープのアドレスは使用できません。グローバルスコープアドレスと一意のローカルアドレスは両方ともホストによってグローバルアドレスとして扱われます。
  グローバルスコープ IP アドレスは、グローバルにルーティング可能なアドレスを意味します。一意のローカルアドレスはグローバルアドレスとして扱われます。
- 同じコマンドで、IPv4 と IPv6 の両方のアドレスを使うことはできません。たとえば、`Configure 9ffe::9 255.255.255.0 1.1.1.1` を使うことはできません。`Configure 9ffe::46 64 9ffe::49 eth1` を使う必要があります。

- IPv6 アドレスへの IPv4アドレスの埋め込みはサポートされていません。たとえば、9ffe::10.23.1.5 のようなアドレスを使うことはできません。
- アプライアンスのメディアサーバーの IPv6 アドレスとホスト名が使用可能な場合は、マスターサーバーにアプライアンスのメディアサーバーを追加できます。
  たとえば、マスターサーバーにアプライアンスのメディアサーバーを追加するには、アプライアンスのメディアサーバーの IPv6 アドレスを次のように入力します。
  例:

  ```
  Main > Network > Hosts add 9ffe::45 v45 v45
  ```

  ```
  Main > Settings > NetBackup AdditionalServers Add v45
  ```

  アプライアンスのメディアサーバーの IPv4 アドレスを提供する必要はありません。
- 純粋な IPv6 クライアントは、NetBackup の場合と同様の方法でサポートされます。
- NIC (Network Interface Card) または結合に対して IPv4 アドレスを 1 つのみ入力できます。ただし、NIC または結合に対して複数の IPv6 アドレスを入力できます。
- NFS (Network File System) または CIFS (Common Internet File System) のプロトコルは、アプライアンスの IPv4 ネットワーク上でサポートされます。NFS または CIFS は、IPv6 ネットワークではサポートされません。
- NetBackup クライアントが IPv6 上のメディアサーバーアプライアンスと通信できるようになりました。
- `Main_Menu > Network > Hosts` コマンドは、1 つの NIC (Network Interface Card) を持つ同じホスト名への複数の IPv6 アドレスの割り当てをサポートします。ただし、このコマンドでは、1 つの NIC を持つ特定のホスト名に 1 つの IPv4 アドレスのみを割り当てることができます。
- ゲートウェイアドレスを指定せずにネットワークインターフェースの IPv6 アドレスを追加できます。
  詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

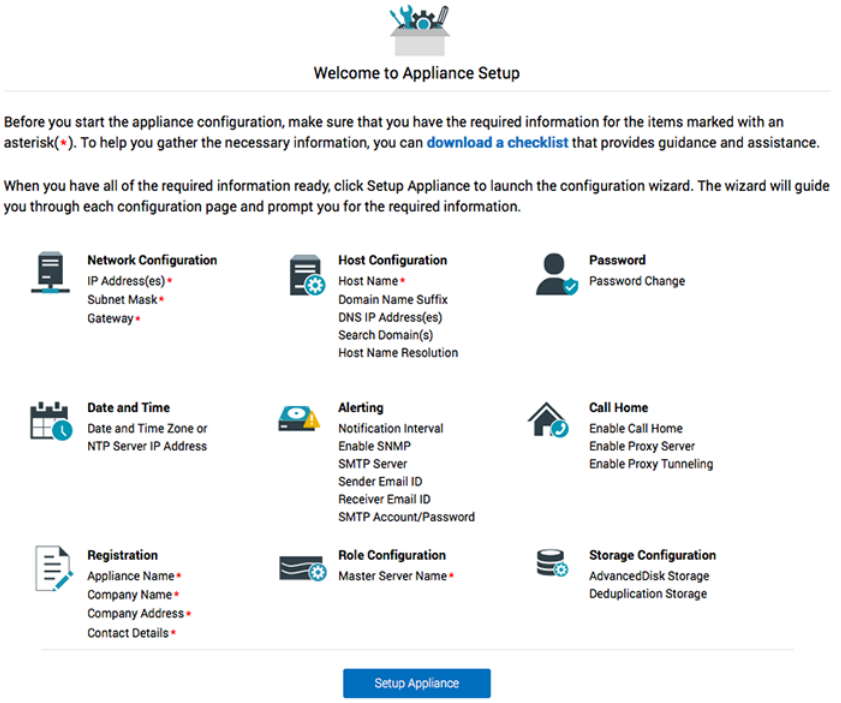
# NetBackup Appliance Web Consoleの初期構成ページの概要

NetBackup Appliance Web Consoleで適切な情報を一連のページに入力して初期構成を実行できます。以下に、各ページと必要な情報の簡単な説明を示します。

## Appliance の設定へようこそ (Welcome to Appliance Setup)

このページは、未構成のアプライアンスにログオンすると表示されます。初期構成に必要な情報の概略を示します。

図 1-1 ［アプライアンスの設定へようこそ (Welcome to Appliance Setup)］ページ

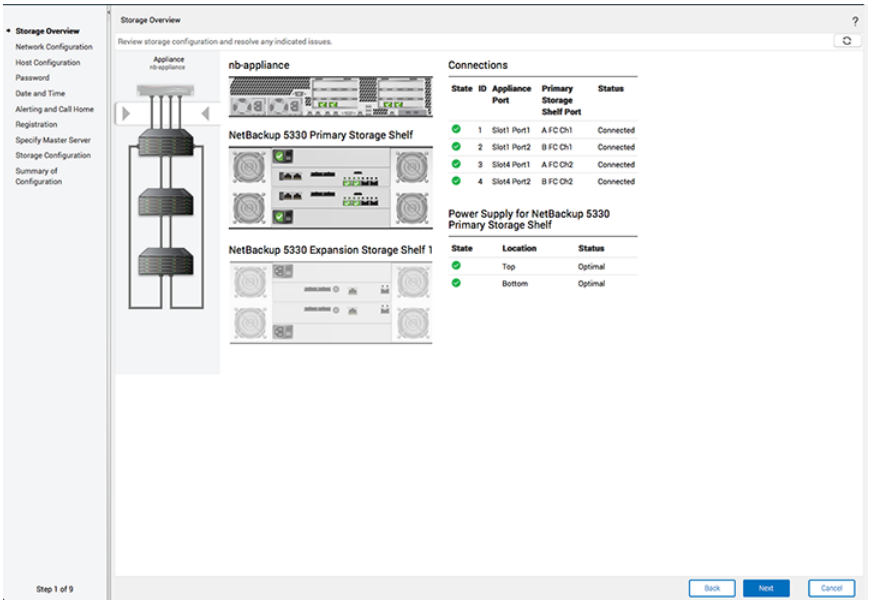



**メモ:** このページには、初期構成の全ページの全データ入力フィールドについて説明するチェックリストをダウンロードするためのリンクが示されています。初期構成を始める前に、［チェックリストをダウンロード (download a checklist)］リンクをクリックして必要な情報をすべて書き留めておくことをお勧めします。

## ストレージの概要 (Storage Overview)

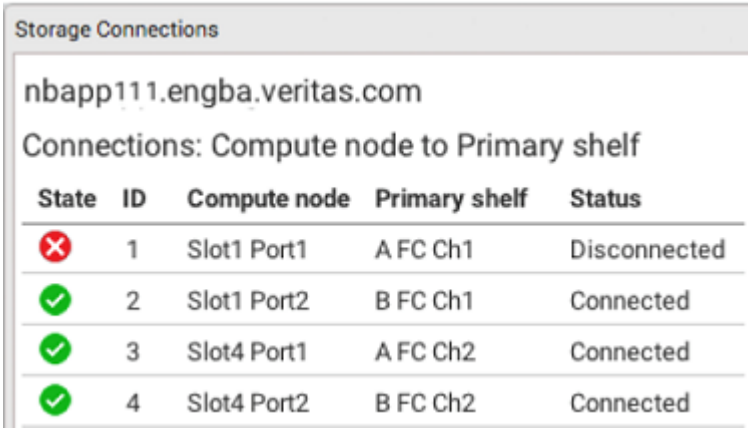
このページには、システムハードウェアコンポーネントすべての現在の状態が表示されます。このページでは、アプライアンスサーバーとプライマリストレージシェルフ、または拡張ストレージシェルフ間のコンポーネントのケーブル接続の問題を特定します。ディスクドライブに問題がある場合は、この問題も特定します。

図 1-2 5330 アプライアンスの[ストレージの概要 (Storage Overview)]ページ




NetBackup 5340 計算ノードとプライマリストレージシェルフ間のファイバーチャネル (FC) 接続について表示される状態を以下に示します。

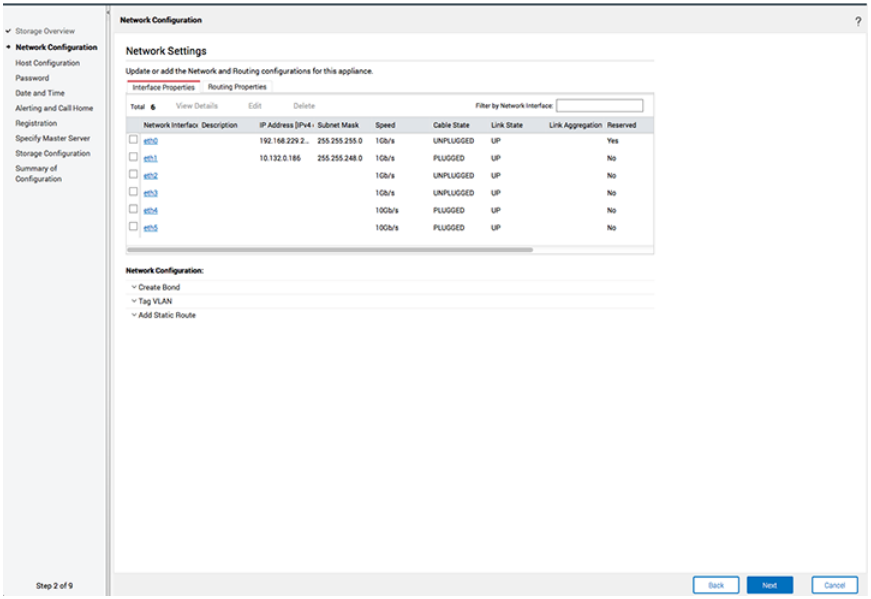
図 1-3 5340 アプライアンスの[ストレージの概要 (Storage Overview)]ページ



## ネットワーク構成 (Network Configuration)

このページでは、企業のネットワーク情報を入力します。上部のテーブルには、インターフェースとルーティングのプロパティを入力する[インターフェースプロパティ (Interface Properties)]タブと[ルーティングプロパティ (Routing Properties)]タブがあります。下部の領域には、[ボンドの作成 (Create Bond)]、[VLAN のタグ付け (Tag VLAN)]、[静的ルートの追加 (Add Static Route)]のドロップダウンタブがあります。各タブを展開してそれぞれの情報を入力します。

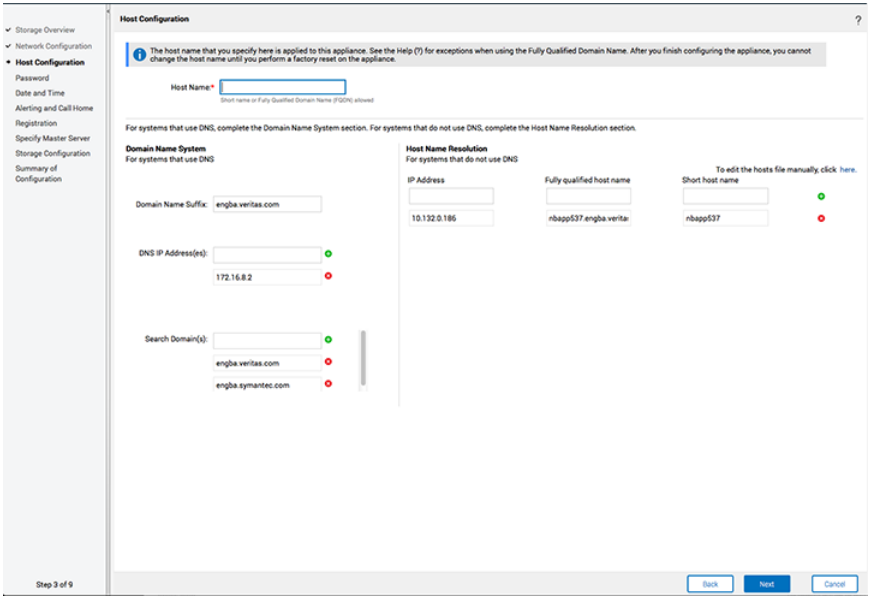
**図 1-4** [ネットワーク構成 (Network Configuration)]ページ




## ホストの構成 (Host Configuration)

このページでは、アプライアンスのホスト ID を入力します。アプライアンスのホスト名 (FQDN と省略名)、IP アドレス、ドメイン名のすべてが必須です。

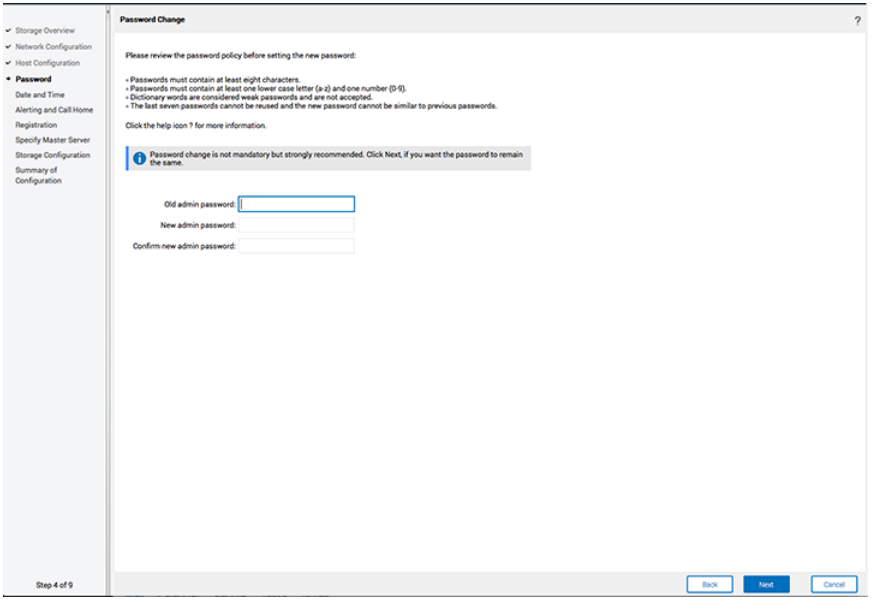
図 1-5 ［ホストの構成 (Host Configuration)］ページ




## パスワードの変更 (Password change)

このページでは、アプライアンスサーバーのパスワードを変更します。初期構成を実行するときに、出荷時のデフォルトのパスワードを安全性の高いパスワードに変更することをお勧めします。

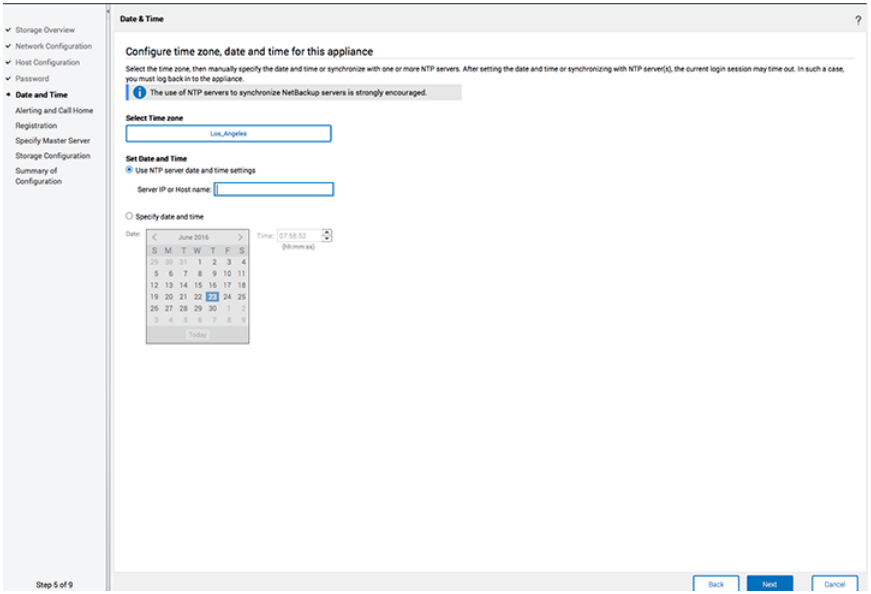
図 1-6 ［パスワードの変更 (Password change)］ページ




## 日付と時刻 (Date & Time)

このページでは、アプライアンスの設置場所の日付、時刻、およびタイムゾーンを設定します。

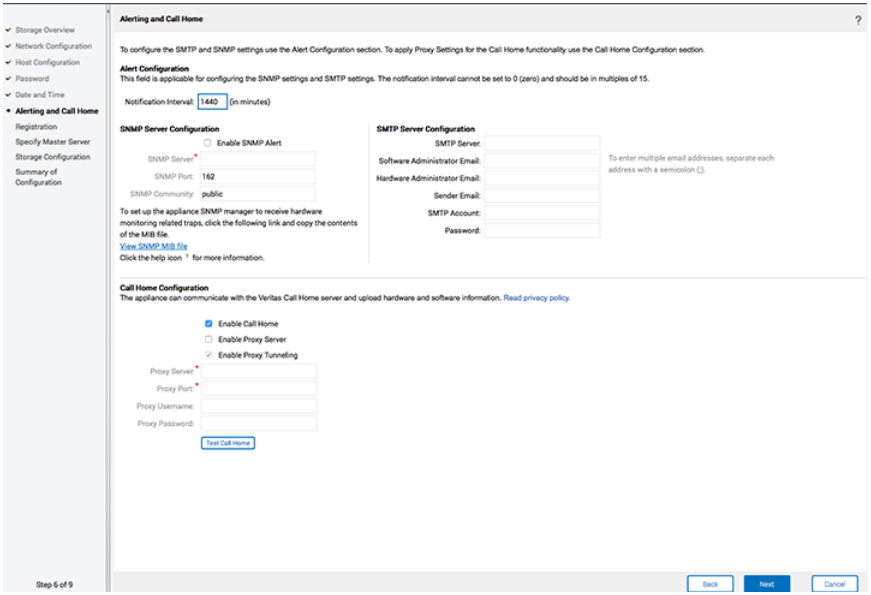
図 1-7 ［日付と時刻 (Date & Time)］ページ




## アラートと Call Home (Alerting and Call Home)

問題を報告するために、このページでシステムアラートや Call Home 機能を構成します。

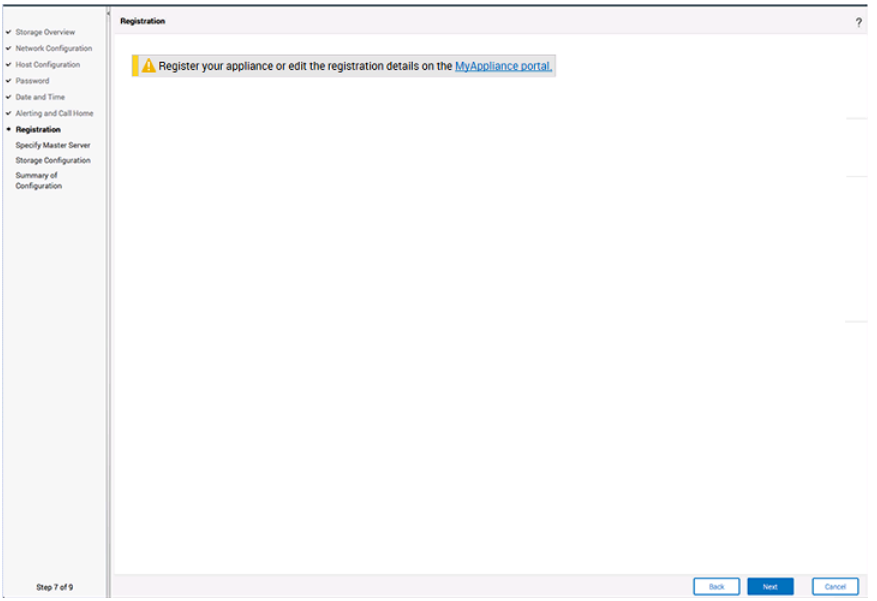
図 1-8 ［アラートと Call Home (Alerting and Call Home)］ページ




## 登録

このページには、MyAppliance ポータルへのリンクが示されています。このポータルでアプライアンス を登録して、アプライアンスに関する製品の更新と他の重要な更新が確実に通知されるようにします。

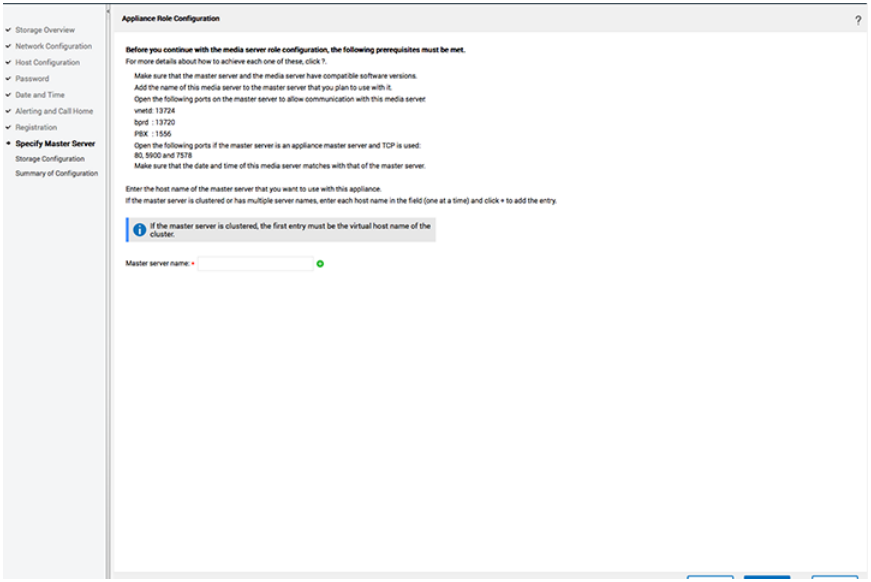
図 1-9 ［登録 (Registration)］ページ




## マスターサーバーの指定 (Specify Master Server)

このページでは、メディアサーバーと組み合わせて使うマスターサーバーを指定します。マスターサーバーを選択する前に、最初にアプライアンスメディアサーバーの名前をマスターサーバーのサーバーリストに追加する必要があります。

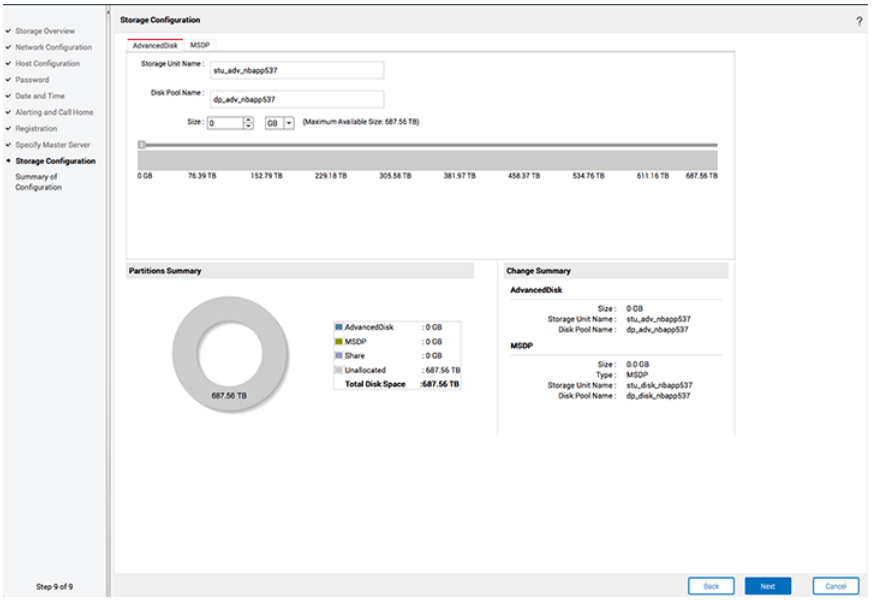
図 1-10 ［マスターサーバーの指定 (Specify Master Server)］ページ




## ［ストレージの構成 (Storage Configuration)］- ［AdvancedDisk］

このページの［AdvancedDisk］タブでは、AdvancedDisk パーティションにストレージ領域を割り当て、ストレージユニットおよびディスクプールに名前を付けます。

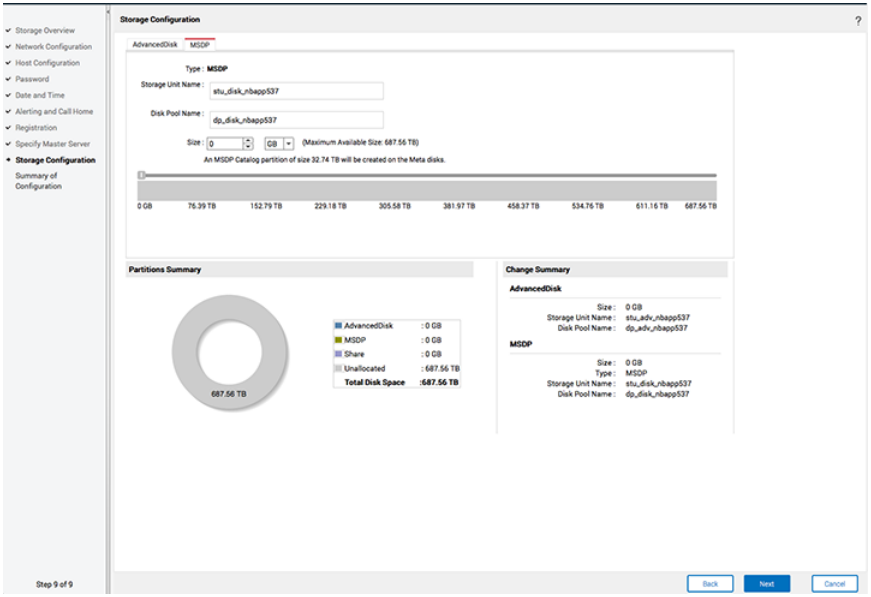
図 1-11 ［ストレージの構成 (Storage Configuration)］ページ - ［AdvancedDisk］




## ［ストレージの構成 (Storage Configuration)］- ［MSDP］

このページの［MSDP］タブでは、メディアサーバー重複排除プールパーティションにストレージ領域を割り当て、ストレージユニットおよびディスクプールに名前を付けます。

図 1-12 ［ストレージの構成 (Storage Configuration)］ページ - ［MSDP］




# NetBackup アプライアンスの初期構成チェックリストについて

初期構成チェックリストは、アプライアンスの初期構成および将来の再構成の計画に役立ちます。

このチェックリストは、NetBackup Appliance Web Consoleに表示される各初期構成ページのデータ入力フィールドを記述する一連の表から成っています。

新しいアプライアンスの場合、アプライアンスを構成する前にこのチェックリストを使って初期構成の設定を記録します。アプライアンスが出荷時設定にリセットまたは再イメージ処理されている場合は、アプライアンスをもう一度構成する必要があります。チェックリストに記録された設定は、時間を節約し、アプライアンスの接続をすばやく元に戻すために役立ちます。

チェックリストは次の場所にあります。

- NetBackup Appliance Web Console
  NetBackup Appliance Web Consoleを使用して初めてアプライアンスにログインすると、［チェックリストをダウンロード (download checklist)］リンクが［ようこそ (Welcome)］ページに表示されます。リンクをクリックすると、チェックリストファイルが開きます。チェックリストには、任意のページのオンラインヘルプ (?) アイコンをクリックし、checklist を検索してもアクセスできます。

- オンライン (Online)
  このチェックリストの最新バージョンの PDF ファイルを取得するには、次のリンクを参照してください。
  https://www.veritas.com/support/en_US/article.000100480

# NetBackup Appliance の初期構成チェックリスト

このチェックリストはアプライアンスの初期構成の計画のために役立ちます。

『NetBackup Appliance の初期構成ガイド』の初期構成の手順と併せて、このチェックリストを使ってください。文書には、このチェックリストの複製も含まれます。

新しいアプライアンスで、アプライアンスの初期構成の設定を記録するために次の表を使います。アプライアンスが出荷時設定にリセットまたは再イメージ処理されている場合は、アプライアンスをもう一度構成する必要があります。チェックリストに記録された設定は、貴重な時間を節約し、アプライアンスの接続をすばやく元に戻すために役立ちます。

このチェックリストのハードコピーまたは印刷されたバージョンを使う場合は、記入済みのチェックリストを安全な場所に置くようにします。また、チェックリストの PDF バージョンを入手し、選択した場所にダウンロードして保存することもできます。このチェックリストの最新版にアクセスするには、次のリンクを参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000100480

## IPMI ポートの構成

IPMI ポートの構成は初期構成とは異なります。アプライアンスへのリモートアクセスにこのポートを使用するには、まずポートをネットワークへの接続用に構成する必要があります。次の表を使って、必要なパラメータ設定を記録します。

**表 1-2** IPMI ポートの構成

| パラメータ | 設定 |
|---|---|
| IP アドレス | |
| ネットマスク | |
| ゲートウェイ IP アドレス | |

## アプライアンスの初期構成

次の表は、NetBackup Appliance Web Consoleの初期構成ページに表示されるフィールドを示します。これらの表を使って、設定を記録します。

表 1-3 ネットワーク構成 - ボンドの作成

| フィールド | 設定 |
|---|---|
| ネットワークインターフェース (Network Interface) | |
| 結合モード (Bond Mode) | |
| IP アドレス (IP Address) | |
| サブネットマスク (Subnet Mask) | |

表 1-4 ネットワーク構成 - VLAN のタグ付け

| フィールド | 設定 |
|---|---|
| インターフェースの選択 | |
| 説明 (上記のインターフェースの選択フィールドについて) | |
| VLAN Id | |
| IP アドレス (IPv4 または IPv6) | |
| サブネットマスク (Subnet Mask) | |

表 1-5 ネットワーク構成 - 静的ルートの追加

| フィールド | 設定 |
|---|---|
| 宛先 IP (Destination IP) | |
| 宛先のサブネットマスク (Destination Subnet Mask) | |
| ゲートウェイ (Gateway) | |
| ネットワークインターフェース (Network Interface) | |

表 1-6 ホストの構成

| フィールド | 設定 |
|---|---|
| ホスト名 (Host Name) | |

| フィールド | 設定 |
| --- | --- |
| ドメイン名システム (Domain Name System) (DNS)<br>■ ドメイン名のサフィックス (Domain Name Suffix)<br>■ DNS の IP アドレス (DNS IP Address)<br>■ 検索ドメイン (Search Domain(s)) | DNS:<br>■ _____<br>■ _____<br>■ _____ |
| ホスト名解決 (Host Name Resolution) (DNS なし)<br>■ IP アドレス (IP address)<br>■ 完全修飾ホスト名 (Fully qualified host name)<br>■ 短いホスト名 (Short host name) | DNS なし:<br>■ _____<br>■ _____<br>■ _____ |

**表 1-7　　パスワードの変更**

| フィールド | 設定 |
| --- | --- |
| 古い admin パスワード (Old admin password) | |
| 新しい admin パスワード (New admin password) | |
| 新しい admin パスワードの確認 (Confirm new admin password) | |

**表 1-8　　日付と時刻の構成**

| フィールド | 設定 |
| --- | --- |
| タイムゾーン (Time zone) | |
| NTP サーバーの IP (NTP Server IP) | |
| 日付と時刻 (Date and Time) | |

**表 1-9　　警告の構成**

| フィールド | 設定 |
| --- | --- |
| 通知の間隔 (Notification Interval) (15 分間隔) | |
| SNMP の警告を有効化 (Enable SNMP Alert) | |

| フィールド | 設定 |
| --- | --- |
| SNMP サーバー (SNMP server) (［SNMP アラートを有効化 (Enable SNMP Alert)］にチェックマークを付けた場合のみ必要) | |
| SNMP ポート (SNMP port) | |
| SNMP コミュニティ (SNMP community) | |
| SMTP サーバー (SMTP server) | |
| ソフトウェア管理者の電子メール (Software administrator email address) | |
| ハードウェア管理者の電子メール (Hardware administrator email address) | |
| 送信者の電子メールアドレス (Sender email address) | |
| SMTP アカウント (SMTP account) | |
| パスワード (Password) | |

**表 1-10　コールホームの構成**

| フィールド | 設定 |
| --- | --- |
| コールホームを有効にする (Enable Call Home) | |
| プロキシサーバーを有効化 (Enable proxy server) | |
| プロキシのトンネリングを有効にする (Enable proxy tunneling) | |
| プロキシサーバー (Proxy server) (［プロキシサーバーを有効化 (Enable proxy server)］にチェックマークを付けた場合のみ必要) | |
| プロキシポート (Proxy port) (［プロキシサーバーを有効化 (Enable proxy server)］にチェックマークを付けた場合のみ必要) | |
| プロキシのユーザー名 (Proxy user name) | |
| プロキシのパスワード (Proxy password) | |

表 1-11 AdvancedDisk ストレージの構成

| フィールド | 設定 |
|---|---|
| ストレージユニット名 (Storage Unit name) | |
| ディスクプール名 (Disk Pool Name) | |
| サイズ (Size) | |

表 1-12 重複排除 (MSDP) ディスクの構成

| フィールド | 設定 |
|---|---|
| ストレージユニット名 (Storage Unit name) | |
| ディスクプール名 (Disk Pool Name) | |
| サイズ (Size) | |

# 最大伝送単位サイズの設定について

MTU プロパティは、イーサネットフレームの最大伝送単位のサイズを制御します。イーサネットの標準的な最大伝送単位サイズは 1500 バイトです (ヘッダーなしの場合)。サポート対象の環境では、MTU プロパティを 9,000 バイトを超えて設定できます。インターフェースにさらに大きなフレームサイズを設定することを、一般的に、ジャンボフレームを使うと言います。ジャンボフレームにより、データがネットワーク経由で送信され、場合によってはスループットが向上して CPU 使用率が減ることがあるため、断片化を減らすことができます。ジャンボフレームを活用するには、イーサネットカード、ドライバ、スイッチのすべてにおいて、ジャンボフレームをサポートする必要があります。さらに、アプライアンスへのデータ転送に使われる各サーバーインターフェースを、ジャンボフレーム用に設定する必要があります。

インターフェースの MTU プロパティを 1500 バイトより大きな値に設定した場合、特定のインターフェースのアプライアンスに接続しているすべてのシステムで、最大伝送単位サイズを同一にすることが推奨されます。こうしたシステムには、NetBackup クライアントやリモートデスクトップが含まれますが、これらに限定されません。また、MTU プロパティを設定する前に、ネットワークハードウェア、OS、ドライバのサポートをすべてのシステムで確認してください。

インターフェースの MTU プロパティは、NetBackup Appliance Shell Menu で `SetProperty` コマンドを使って設定できます。

『 `NetBackup Appliance` **コマンドリファレンスガイド**』の SetProperty コマンドを参照してください。

2

# 初期構成の手順

この章では以下の項目について説明しています。


- マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信
- NetBackup Appliance Web Consoleを使用して NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスの初期構成を実行する
- NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスの初期構成を実行する
- NetBackup 53xx 高可用性構成の設定
- NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx 高可用性構成のパートナーノードの初期構成を実行する
- NetBackup 53xx 高可用性構成へのパートナーノードの追加


## マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信

メディアサーバーの役割について新しいアプライアンスを構成する前に、まず一緒に使う計画のマスターサーバーの構成を更新する必要があります。マスターサーバーと新しいメディアサーバー間の通信を確保するには、新しいメディアサーバーホスト名をマスターサーバー上の[追加サーバーリスト (Additional Servers List)]に追加する必要があります。

高可用性構成の場合、設定手順に使用するノードのホスト名を追加する必要があります。

次の手順は、マスターサーバーを構成して新しいアプライアンスのメディアサーバーと通信する方法を示しています。

### マスターサーバーを構成して新しいメディアサーバーと通信する方法

**1** アプライアンスをメディアサーバーの役割用に構成する前に、次のようにソフトウェアバージョンにマスターサーバーとの互換性があることを確認します。

- マスターサーバーが NetBackup Appliance の場合
- マスターサーバーが従来の (非アプライアンス) NetBackup マスターサーバーの場合

**2** マスターサーバーに管理者としてログインし、次のようにメディアサーバー名を追加します。

| | |
|---|---|
| アプライアンスのマスターサーバー | NetBackup Appliance Web Consoleで次の操作を実行します。<br>■ ［管理 (Manage)］>［追加サーバー (Additional Servers)］>［追加 (Add)］をクリックします。<br>■ ［アプライアンスのホスト名 (Appliance Hostname)］フィールドに、追加するアプライアンスのメディアサーバーの完全修飾ホスト名 (FQHN) を入力します。<br>■ ［追加 (Add)］をクリックします。<br>アプライアンスに複数のホスト名がある場合はすべての名前を追加します。<br><br>NetBackup Appliance Shell Menuで次の操作を実行します。<br>■ Main_Menu > Settings ビューで、次のコマンドを実行します。<br>`Settings > NetBackup AdditionalServers Add` *`media-server`*<br>*media-server* は、まだ構成していないアプライアンスのメディアサーバーの完全修飾ホスト名 (FQHN) です。<br>アプライアンスに複数のホスト名がある場合はすべての名前を追加します。 |

従来の NetBackup マスターサーバー

- 管理者として NetBackup 管理コンソールにログオンします。
- コンソールのメインウィンドウの左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Server)]をクリックします。
- 右ペインで、マスターサーバーのホスト名をクリックします。
- [ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウの左ペインで、[サーバー (Servers)]をクリックします。
- 右ペインの[追加サーバー (Additional Servers)]セクションで、[追加 (Add)]をクリックしてアプライアンスのホスト名を入力します。アプライアンスのホスト名が最上部の[追加サーバー (Additional Servers)]セクションに表示されます。
  アプライアンスに複数のホスト名がある場合はすべての名前を追加します。
- [OK]をクリックして[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ウィンドウを閉じます。

**3** マスターサーバーとメディアサーバーの間にファイアウォールがある場合、マスターサーバーの次のポートを開いてメディアサーバーとの通信を許可します。

**メモ:** ポート設定を変更するには管理者としてログインしている必要があります。

- `vnetd: 13724`
- `bprd: 13720`
- `PBX: 1556`
- マスターサーバーが TCP を利用する NetBackup Appliance の場合、次のポートを開きます。
  443、5900、7578。

**4** メディアサーバーの日時とマスターサーバーの日時が一致していることを確認します。NTP サーバーを使うことも、時間を手動することもできます。

p.33 の「NetBackup Appliance Web Consoleを使用して NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスの初期構成を実行する」を参照してください。

# NetBackup Appliance Web Consoleを使用して NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスの初期構成を実行する

このトピックでは、新規または出荷時のデフォルト (出荷時の設定) にリセットされている NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスを構成する方法について説明します。

この方法では、アプライアンスポート NIC1 (eth0) にノートパソコンを直接接続する必要があります。NetBackup 53xx アプライアンスは、メディアサーバーとしてのみ構成できます。

高可用性構成の場合、この手順を使用して、設定手順で使用する 53xx アプライアンスを設定します。このアプライアンス(計算ノード)を設定してから高可用性構成を続行および完了する方法について詳しくは、手順 18 を参照してください。

このメディアサーバーの初期構成を実行する前に、すでに次のタスクを完了していることを確認してください。

- マスターサーバーとメディアサーバーが互換性のあるソフトウェアのバージョンであることを検証済みであること。
- マスターサーバー上の SERVERS リストにこのメディアサーバーのホスト名を追加済みであること。
  高可用性構成の場合、設定手順に使用するノードのホスト名が追加済みであること。
  p.30 の「マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信」を参照してください。
- マスターサーバーとこのメディアサーバーの間にファイアウォールがある場合は、マスターサーバーの該当するポートが開かれていること。
  p.30 の「マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信」を参照してください。
- 初期構成のチェックリストを完了したこと。

---

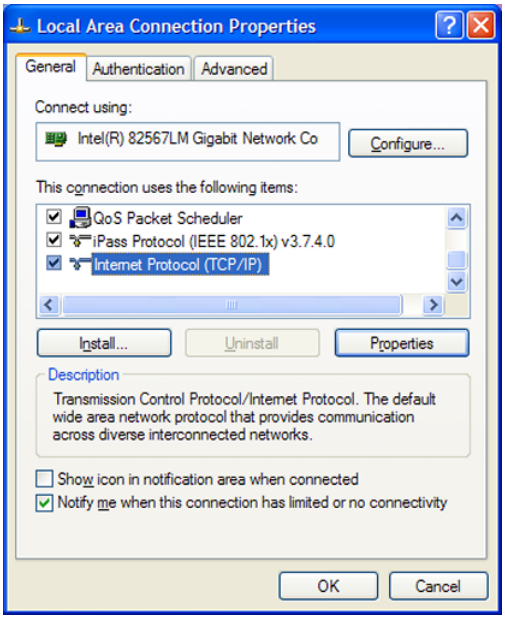
**注意:** アプライアンスは**メンテナンス**ユーザーアカウントの既知のデフォルトパスワードが設定された状態で提供されます。このパスワードは、アプライアンスのメンテナンスモードに不正にアクセスされないように、初期構成の前または直後に変更してください。なお、アプライアンスのトラブルシューティングサービスが必要な場合に、ベリタステクニカルサポートに**メンテナンス**ユーザーパスワードを知らせる必要があります。次に示す手順の手順 17 では、**メンテナンス**ユーザーパスワードの変更方法を説明しています。

---

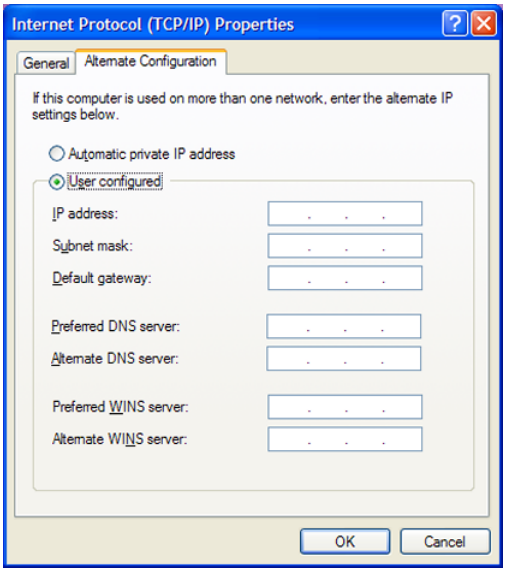
### NetBackup Appliance Web Consoleを使用して NetBackup 53xx メディアサーバーアプライアンスの初期構成を実行するには

1 アプライアンスポート NIC1 にノートパソコンを接続します。次に、[ローカルエリアの接続プロパティ]ダイアログボックスに移動します。

[全般 (General)]タブで、[インターネットプロトコル (TCP/IP) (Internet Protocol (TCP/IP))]を選択してハイライト表示し、[プロパティ (Properties)]をクリックします。




[代替の構成 (Alternate Configuration)]タブで、次のタスクを実行します。




- ［ユーザー構成 (User Configured)］をクリックします。
- ［IP アドレス (IP address)］に、192.168.229.nnn と入力します。nnn は 2 ～ 254 (233 を除く)の任意の数字です。
- ［サブネットマスク (Subnet mask)］に、255.255.255.0 と入力します。
- ［OK］をクリックします。

**2** アプライアンスに接続したノートパソコンで Web ブラウザを開いて次の URL にアクセスします。

http://192.168.229.233

セキュリティ例外を続行することを確かめます。

**3** 次のようにデフォルトの資格情報でアプライアンスにログオンします。

- ［ユーザー名 (User Name)］: admin
- ［パスワード (Password)］: P@ssw0rd

**4** ［Appliance の設定へようこそ (Welcome to Appliance Setup)］ページで、初期構成を実行するために必要な情報の概要を確認します。

- ［構成チェックリストのダウンロード (Download Configuration Checklist)］
  事前に『NetBackup 53xx 初期構成ガイド』のチェックリストに記入していない場合は、このリンクをクリックして電子バージョンにアクセスします。構成の実行時に使えるように、最初にこのファイルを印刷し、記入しておくことをお勧めします。初

期構成を完了したら、将来の参照用にこのチェックリストを安全な場所に保管します。

- ［アプライアンスを設定 (Setup Appliance)］
  構成チェックリストに記入した後、この項目をクリックして構成を開始します。

**5** ［ストレージの概要 (Storage Overview)］ページで、接続したハードウェアコンポーネントの状態を調べて確認します。

ダイアグラムでは、コンポーネントケーブルまたはディスクドライブに問題が存在するかどうかを示す固有のアイコンが使われます。以下では、表示される可能性のある一般的なアイコンについて説明します。

**メモ:** ページの右上隅にあるヘルプ (?) アイコンをクリックすると、アイコンの説明の完全な一覧が表示されます。

OK

警告 (Warning)

後で解決できる問題を示します。この場合は、初期構成を続行できます。ただし、このような問題により、影響を受けるデバイスにアクセスできなくなります。アイコンをクリックして、問題の説明を参照してください。

エラー (Error)

初期構成を続行する前にすぐに解決する必要のある重要な問題を示します。アイコンをクリックして、問題の説明を参照してください。

情報 (Information)

アイコンをクリックして、特定領域に関する情報を参照してください。

問題がなければ、［次へ (Next)］をクリックして初期構成を開始します。問題を解決する場合は次のガイドラインを使います。

- 問題の説明を表示するには、警告またはエラーアイコンをクリックします。
- すべてのケーブルが正しく接続され、固定されていることを確認します。
- すべてのディスクドライブが正しく設置され、固定されていることを確認します。

- すべてのユニットが電源オンであり、完全に起動していることを確認します。
- ハードウェアチェックリストの項目をすべてチェック済みであることを確認します。
- 上記の項目の確認後または変更後に［更新 (Refresh)］をクリックします。警告またはエラーアイコンが表示されなくなった場合は、問題が解決したことを示します。
  初期構成を開始する前にすべての問題を解決することをお勧めします。

---

**メモ:** 上記の項目のすべてを確認し更新してもエラー問題を解決できない場合は、そこで作業を中止してベリタスのテクニカルサポートに問い合わせてください。

---

**6** ［ネットワーク構成 (Network Configuration)］ページには、特定のタスクを完了するための次のタスクバーと、ネットワーク接続を構成するための関連するデータ入力フィールドがあります。

- ［ボンドの作成 (Create Bond)］ - 2つ以上のネットワークインターフェース間の結合を作成するのに使います。
- ［VLAN のタグ付け (Tag VLAN)］ - 既存のネットワーク環境の VLAN を構成するのに使います。
- ［静的ルートの追加 (Add Static Route)］ - ネットワークのルート構成を追加するのに使います。

各タスクバーを展開して、関連するネットワーク構成情報を入力します。これらの機能は互いに独立しているため、表示される順序で構成する必要はありません。

---

**メモ:** NetBackup Appliance は、同じサブネットに属する 2 つの IP アドレスの構成をサポートしません。アプライアンスは Linux のオペレーティングシステムで実行され、この種類のネットワークは現在の制限事項です。作成する各結合は、異なるサブネットに属する IP アドレスを使う必要があります。

---

**メモ:** アプライアンスのホスト名がその IP アドレスに解決される場合は、IP アドレスを削除できません。

---

次のように、［ボンドの作成 (Create Bond)］の適切な情報を入力します。

### [ボンドの作成 (Create Bond)]データ入力フィールド

- ネットワークインターフェース (Network Interface)
  ドロップダウンボックスをクリックし、ネットワーク接続に使うイーサネット NIC ポートを選択します。
- 結合モード (Bond Mode)
  ドロップダウンボックスをクリックし、結合する NIC ポートに使う結合モードを選択します。結合により、複数のネットワークインターフェースを単一の論理「結合」インターフェースに集約できます。結合されたインターフェースの動作はモードによって異なります。デフォルト結合モードは[balance-alb]です。

  ドロップダウンリストから利用可能な結合モードは以下のとおりです。
  - balance-rr
  - active-backup
  - balance-xor
  - broadcast
  - 802.3ad
  - balance-tlb
  - balance-alb

  いくつかの結合モードでは、スイッチまたはルーターでの追加構成が必要となります。結合モードを選択する際には、その点にも注意する必要があります。
  結合モードについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。
  http://www.kernel.org/doc/Documentation/networking/bonding.txt
  すべてのフィールドに適切なデータを入力した後に、[+]をクリックして選択したネットワークインターフェースを追加してすぐに組み込む必要があります。結合を構成するには、[結合モード (Bond Mode)]ドロップダウンボックスから複数のインターフェースを選択する必要があります。IPv6 アドレスには、[サブネットマスク (Subnet Mask)]として 64 を入力します。
- IP アドレス (IP Address)
  このアプライアンスサーバーの IP アドレスを入力します。
- サブネットマスク (Subnet Mask)
  このアプライアンスサーバーの IP アドレスを特定するネットワークアドレスを入力します。
- すべてのフィールドに適切なデータを入力した後に[+]をクリックし、結合設定を保存して追加します。

ご使用の環境で必要な場合は、次のように適切な Tag VLAN 情報を入力します。

### [VLAN のタグ付け (Tag VLAN)]データ入力フィールド

- インターフェースの選択
  VLAN をタグ付けするネットワークインターフェースかデバイス名を選択します。
- 説明 (Description)
  VLAN の説明を入力します。たとえば、財務、人事管理など。
- VLAN Id
  VLAN に 1 から 4094 までの番号識別子を入力します。
- IP アドレス [IPv4 または IPv6] (IP Address [IPv4 or IPv6])
  このアプライアンスで使う IPv4 または IPv6 アドレスを入力します。
- サブネットマスク (Subnet Mask)
  IP アドレスに対応するサブネットマスク値を入力します。
- [追加 (Add)]をクリックして、タグ付けする VLANの構成情報を既存のネットワーク環境に追加します。
  タグ付けする追加の VLAN の情報を入力するには、[+]記号をクリックして行を追加します。行を削除するには、[サブネットマスク (Subnet Mask)]フィールドの横にある[-]記号をクリックします。

次のように、[静的ルートの追加 (Add Static Route)]の適切な情報を入力します。

### [ルーティング構成 (Routing Configuration)]データ入力フィールド

- 宛先 IP (Destination IP)
  宛先ネットワークのネットワーク IP アドレスを入力します。アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。
  p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。
- 宛先のサブネットマスク (Destination Subnet Mask)
  [宛先 IP (Destination IP)]のアドレスに対応するサブネット値を入力します。
  初期構成では、変更できないデフォルト値がこのフィールドに含まれています。別のルートを構成するときは、適切な値を入力する必要があります。
- ゲートウェイ (Gateway)
  別のネットワークへの入り口として機能するネットワークポイントのアドレスを入力します。アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。
  p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。
- ネットワークインターフェース (Network Interface)
  ドロップダウンボックスをクリックし、ネットワーク接続に使うイーサネット NIC ポートを選択します。
- すべてのフィールドに適切なデータを入力した後に[+]をクリックし、ルーティング構成の設定を保存して追加します。

**7** On the [ホスト構成 (Host Configuration)]ページで、次のようにホストの解決情報を入力できます。

- ［hosts ファイルを手動で編集するには、ここをクリック (To edit the hosts file manually, click here)］
  IP アドレス、完全修飾ホスト名、短いホスト名を /etc/hosts ファイルに直接追加します。［ここ (here)］をクリックして /etc/hosts ファイルを開いて編集します。
- 以下のフィールドにアプライアンスのホスト名と関連ホスト解決情報を入力します。

ホスト名 (Host Name)

このアプライアンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。

このアプライアンスの短いホスト名または完全修飾ドメイン名（FQDN）を入力します。

一部の例外を除き、ホスト名はアプライアンス構成全体に適用されます。短縮名は次の場所に常に表示されます。

- NetBackup Appliance Shell Menuプロンプト
- 重複排除プールカタログのバックアップポリシー
- デフォルトのストレージユニットおよびディスクプール名

このアプライアンスが出荷時の設定にリセットされていて、以前のバックアップイメージのいずれかをインポートする場合は、アプライアンスのホスト名が次のルールのいずれかを満たしている必要があります。

- ホスト名は出荷時の設定へのリセット前に使われるものとまったく同じである必要があります。
- FQDN にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた短い名前を含んでいる必要があります。 たとえば、「myhost」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい FQDN として「myhost.domainname.com」を使います。
- 短いホスト名にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた FQDN から得られる名前にする必要があります。 たとえば、「myhost.domainname.com」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい短いホスト名として「myhost」を使います。

**メモ:** ホスト名は初期構成セッションの間のみ設定することができます。初期構成が正常に完了した後、アプライアンスで出荷時の設定にリセットすると初期構成を再入力できます。詳しくは、『NetBackup appliance 管理者ガイド』を参照してください。

DNS システムの場合

以下の[ドメイン名システム (Domain Name System)]情報を入力します。

- ドメイン名のサフィックス (Domain Name Suffix)
  DNS サーバーのサフィックス名を入力します。
- DNS の IP アドレス (DNS IP Address(es))
  DNS サーバーの IP アドレスを入力した後、[+]アイコンをクリックしてアドレスを追加します。必要なアドレスの追加数に応じて繰り返します。
  アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。IPv6 アドレスの場合、グローバルスコープまたは一意のローカルアドレスのみを入力できます。
  p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。
  アドレスを削除するには、データ入力フィールド下のリストからそのアドレスを選択し、[x]アイコンをクリックします。
- 検索ドメイン (Search Domain(s))
  ご使用の環境で必要な場合、検索ドメイン名を入力し、+ アイコンをクリックして、その名前を追加します。必要な検索ドメインの追加数に応じて繰り返します。
  検索ドメインを削除するには、データ入力フィールド下のリストからその検索ドメインを選択し、[x]アイコンをクリックします。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

DNS を使わないシステムの場合

以下の[ホスト名解決 (Host name resolution)]の情報を入力します。

- IP
  アプライアンスの IP アドレスを入力します。
  アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。IPv6 アドレスの場合、グローバルスコープまたは一意のローカルアドレスのみを入力できます。
  p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。
- 完全修飾ホスト名 (Fully qualified host name)
  アプライアンスの完全修飾ホスト名 (FQHN) を入力します。
- 短いホスト名 (Short host name)
  アプライアンスの短い名前を入力します。
  2 つ以上の名前を入力するには、名前の間にスペースなしでカンマを追加します。

すべてのフィールドに入力した後、[+]アイコンをクリックします。追加したエントリがフィールドの下に表示されます。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

**8** [パスワードの変更 (Password change)]ページで、以下のようにデフォルトのパスワードを置き換える新しいパスワードを入力します。

---

**メモ:** 初期構成の続行には、デフォルトパスワードの変更は必須ではありません。ただし、環境のセキュリティを高めるためにパスワードを定期的に変更することをお勧めします。現在のパスワードの記録は安全な場所に保管するように徹底してください。

---

| | |
|---|---|
| 古い admin パスワード (Old admin password) | 出荷時のデフォルトパスワード (`P@ssw0rd`) を入力します。 |
| 新しい admin パスワード (New admin password) | 新しいパスワードを入力します。<br>有効なパスワードには、以下を含める必要があります。<br>■ 8 文字以上<br>■ 少なくとも 1 つの小文字<br>■ 少なくとも 1 つの数字 (0 から 9)<br>大文字と特殊文字を含めることはできますが、必須ではありません。<br>次に、パスワードの制限について説明します。<br>■ 辞書にある言葉は弱いパスワードと見なされて受け入れられません。<br>■ 過去 7 回分のパスワードは再利用できません。以前のパスワードに類似する新しいパスワードも使えません。 |
| 新しいパスワードの確認 (Confirm new password) | 確認のために新しいパスワードを再入力します。 |

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

**9** [日時 (Date & Time)]ページで、このアプライアンスの適切な日付と時刻を入力します。このメディアサーバーの日時は、関連付けられたマスターサーバーの日時と一致する必要があります。

情報を手動で入力する以外に、NTP (Network Time Protocol) サーバーを使ってネットワーク上でアプライアンスの日時を同期することもできます。

| | |
|---|---|
| タイムゾーン (Time zone) | アプライアンスにタイムゾーンを割り当てるには、[タイムゾーン (Time zone)]ドロップダウンボックスをクリックし、該当する地域、国、タイムゾーンを選択します。 |

| | |
|---|---|
| 日付と時刻の指定 (Specify date & time) | 日付と時刻を手動で入力するには、このオプションを選択し、次の情報を入力します。<br>■ 最初のフィールドに、mm/dd/yyyy の形式で日付を入力します。または、カレンダーのアイコンをクリックし、適切な年月日を選択します。<br>■ 2 番目のフィールドに、hh:mm:ss の形式で時刻を入力します。24 時間形式 (00:00:00 から 23:59:59) で入力する必要があります。 |
| NTP | アプライアンスを NTP サーバーと同期するには、このオプションを選択して適切な NTP [サーバーの IP (Server IP)] アドレスを入力します。 |

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

**10** [アラートと Call Home (Alerting and Call Home)]ページで、アプライアンスがベリタスコールホームサーバーに電子メールでアラートを送信したり、状態レポートをアップロードするための情報を入力します。

警告の場合は、次のように、[警告の構成 (Alert Configuration)]の適切な情報を入力します。

### ［警告の構成 (Alert Configuration)］データ入力フィールド

- 通知の間隔 (Notification interval) (分)
  アプライアンスがベリタス Call Home サーバーにアラートをアップロードする間隔を入力します。15 分単位で入力する必要があります。
- SNMP の警告を有効化 (Enable SNMP Alert)
  このチェックボックスにチェックマークを付け、以下の SNMP 情報を入力します。
  - SNMP サーバー (SNMP server)
    このコンピュータを定義する SNMP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
    IPv4 または IPv6 の IP アドレスを入力できます。IPv6 の場合は、グローバルスコープと一意のローカルアドレスのみを入力できます。
  - SNMP ポート (SNMP port)
    このアプライアンスとの通信を許可する SNMP サーバーのポート番号を入力します。
  - SNMP コミュニティ (SNMP community)
    警告やトラップが送信されるコミュニティ名を入力します。
    たとえば、［SNMP サーバー (SNMP server)］に入力した情報と同じ情報を入力できます。また、会社名の他、admin_group、public、private などの名前も入力できます。何も入力しない場合には、デフォルト値は Public です。
  - SNMP の MIB ファイルを表示 (View SNMP MIB file)
    関連トラップを監視するハードウェアを受信するようにアプライアンスの SNMP マネージャを設定するには、このリンクをクリックして MIB ファイルの内容を表示します。次に、ファイルを別の場所にコピーし、その内容を使って SNMP マネージャを更新します。
    アプライアンスは SNMPv2c 形式のトラップのみを受け入れることができます。
- SMTP サーバー (SMTP server)
  このコンピュータを定義する SMTP サーバーのホスト名またはその IP アドレスを入力します。
- ソフトウェア管理者の電子メール (Software administrator email address)
  ソフトウェア管理者が通知を受信するための電子メールアドレスを入力します。
- ハードウェア管理者の電子メール (Hardware administrator email address)
  ハードウェア管理者が通知を受信するための電子メールアドレスを入力します。
- 送信者の電子メールアドレス (Sender email address)
  受信者がレポートのソースを識別できるようにアプライアンスの電子メールアドレスを入力します。
- SMTP アカウント (SMTP account)
  SMTP サーバーのアカウント名を入力します。
- パスワード (Password)
  セキュリティを高めるには、SMTP サーバーのパスワードを入力します。

プロキシサーバーまたはベリタスコールホームサーバーに電子メールのレポートを送信するように、このサーバーを構成できます。

次のプロキシサーバーがサポートされます。

- Squid
- Apache
- TMG

---

**メモ:** プロキシ構成の NTLM 認証もサポートされます。

---

Call Home の場合は、次のように、[コールホームの構成 (Call Home Configuration)]の適切な情報を入力します。

**[Call Home の構成 (Call Home Configuration)]データ入力フィールド**

- Call Home を有効にする (Enable Call Home)
  アプライアンスがベリタス Call Home サーバーに電子メールレポートを送信するようにするには、このチェックボックスにチェックマークを付けます。
- プロキシサーバーを有効化 (Enable proxy server)
  電子メール通知にプロキシサーバーを使う場合は、このチェックボックスにチェックマークを付け、以下のプロキシ情報を入力します。
- プロキシのトンネリングを有効にする (Enable proxy Tunneling)
  プロキシトンネリングを有効にするには、このチェックボックスにチェックマークを付け、以下のプロキシ情報を入力します。
  - プロキシサーバー (Proxy server)
    サーバーの IP アドレスを入力します。
    IPv4 または IPv6 の IP アドレスを入力できます。IPv6 の場合は、グローバルスコープと一意のローカルアドレスのみを入力できます。
  - プロキシポート (Proxy port)
    このアプライアンスとの通信を許可するプロキシサーバーのポート番号を入力します。
  - プロキシのユーザー名 (Proxy username)
    プロキシサーバーのユーザー名を入力します。
  - プロキシのパスワード (Proxy password)
    プロキシサーバーのパスワードを入力します。
  - Call Home のテスト (Test Call Home)
    必要な情報をすべて入力した後、[Call Home のテスト (Test Call Home)]をクリックして、ベリタスサーバーとの通信を確認することをお勧めします。
    テストが失敗した場合は、すべての名前、IP アドレス、ポート番号が正しく入力されていることを確認してください。テストが再度失敗した場合は、ベリタスのテクニカルサポートに問い合わせてください。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

**11** [登録 (Registration)]ページで、MyAppliance ポータル (https://my.appliance.veritas.com) へのリンクをクリックし、アプライアンスを登録してと連絡先情報を入力します。

**12** [マスターサーバーの指定 (Specify Master Server)]ページで、このメディアサーバーと共に使うマスターサーバーの名前を次のように入力します。

- 名前と IP アドレスが 1 つだけのマスターサーバーの場合
  マスターサーバーのホスト名または IP アドレスを入力し、[追加 (Add)]をクリックします。
- クラスタ化されたマスターサーバー、または複数の名前と IP アドレスを持つマスターサーバーの場合
  フィールドに最初のホスト名か IP アドレスを入力し、[追加 (Add)]をクリックします。マスターサーバーがクラスタ化されている場合は、最初のエントリはクラスタの仮想ホスト名である必要があります。
  追加のホスト名か IP アドレスをそれぞれ (1 つずつ) 同じように入力し、入力が完了するたびに[追加 (Add)]をクリックします。

  **メモ:** マスターサーバーのホスト名が FQDN の場合は、FQDN を使ってメディアサーバーのマスターサーバーを指定することをお勧めします。

- 必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。
- [証明書の検証 (Certificate Verification)]ダイアログボックスが表示されます。
  CA 証明書の詳細を確認し、[配備 (Deploy)]をクリックして、CA 証明書をメディアサーバーに配備します。
  必要に応じてトークンを入力し、[配備 (Deploy)]をクリックして、ホスト ID ベースの証明書をメディアサーバーに配備します。
  セキュリティ証明書について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup のセキュリティ証明書」の章を参照してください。

**メモ:** 役割の構成を完了すると、ストレージの初期化が開始します。システムのディスクドライブの数によって、ストレージの初期化が完了するまでに最長 46 時間かかることがあります。その結果、アプライアンスのバックアップと復元のパフォーマンスは、ストレージの初期化処理が完了するまで低下します。

**13** [ストレージの構成 (Storage Configuration)]ページで、使う予定のストレージユニットとディスクプールの名前を作成し、ディスクパーティションのサイズを構成します。

AdvancedDisk 用、重複排除 (MSDP) 用、またはその両方用のストレージのパーティションを構成できます。

**メモ:** MSDP ストレージを構成することを選択した場合は、MSDP カタログを保護するためのポリシーが自動的に作成されます。このポリシーを見直し、アプライアンスの構成後に有効にすることを推奨します。

AdvancedDisk

以下の情報を入力します。

- ストレージユニット名 (Storage Unit Name)
  このストレージユニットを識別するために使う名前を入力します。英字、数字、特殊文字を使うことができます。名前には最大 256 文字を含めることができます。

  **メモ:** 名前はマイナス (-) 文字から始めることはできません。また名前にスペースを使うこともできません。
- ディスクプール名 (Disk Pool Name)
  このディスクプールを識別するために使う名前を入力します。英字、数字、特殊文字を使うことができます。名前には最大 256 文字を含めることができます。

  **メモ:** 名前はマイナス (-) 文字から始めることはできません。また名前にスペースを使うこともできません。
- サイズ (Size)
  [サイズ (Size)]フィールドに正確な数を入力してこのパーティションのサイズを設定するか、または灰色のスライドバーのボックスをクリックして目的のサイズにドラッグします。サイズは、利用可能な最大容量によって、GB 単位または TB 単位で設定できます。

重複排除ディスク (MSDP)

以下の情報を入力します。

- ストレージユニット名 (Storage Unit Name)
  このストレージユニットを識別するために使う名前を入力します。英字、数字、特殊文字を使うことができます。名前には最大 256 文字を含めることができます。

  **メモ:** 名前はマイナス (-) 文字から始めることはできません。また名前にスペースを使うこともできません。
- ディスクプール名 (Disk Pool Name)
  このディスクプールを識別するために使う名前を入力します。英字、数字、特殊文字を使うことができます。名前には最大 256 文字を含めることができます。

  **メモ:** 名前はマイナス (-) 文字から始めることはできません。また名前にスペースを使うこともできません。
- サイズ (Size)
  [サイズ (Size)]フィールドに正確な数を入力してこのパーティションのサイズを設定するか、または灰色のスライドバーのボックスをクリックして目的のサイズにドラッグします。サイズは、利用可能な最大容量によって、GB 単位または TB 単位で設定できます。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

**14** [構成の進捗状況 (Configuration Progress)]ページで、アプライアンスによって構成ページからのすべてのデータ入力が適用される処理の進捗状況を監視できます。

構成が完了するまでの時間は、環境の複雑さによって決まります。

**15** [構成の概略 (Summary of Configuration)]ページで、構成の結果を確認します。設定が正常に完了したことを確かめるために結果を確認します。

このページでは、発生した可能性があるエラーの特定も行います。結果にエラーが表示されている場合は、初期構成を再実行する必要がある場合もあります。

**16** 設定が正常に完了した後、NetBackup のサービスが開始するまで約 10 分お待ちください。その後で、完全修飾ホスト名を使ってアプライアンスに再接続し、ログインする必要があります。

**17** 次のように、デフォルトの `Maintenance` ユーザーパスワードを変更します。

- NetBackup Appliance Shell Menuにログオンし、`Main_Menu > Support > Maintenance` コマンドを入力します。
- パスワードプロンプトで、デフォルトの**メンテナンス**ユーザーパスワード(`P@ssw0rd`)を入力します。
- **メンテナンス**シェルプロンプトで `passwd` コマンドを入力してパスワードを変更します。
- `Exit` と入力すると NetBackup Appliance Shell Menuに戻ります。

`Support > Maintenance` コマンドの使用について詳しくは、『NetBackup アプライアンスコマンドリファレンスガイド』を参照してください。

**18** 高可用性ソリューションの場合は、パートナーノードで初期構成を実行する前に、この構成済みアプライアンス (計算ノード) で高可用性構成を設定する必要があります。高可用性構成を続行して完了するには、次のタスクを記載されている順番どおりに実行します。

p.60 の「NetBackup 53xx 高可用性構成の設定」を参照してください。

p.65 の「NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx 高可用性構成のパートナーノードの初期構成を実行する」を参照してください。

p.72 の「NetBackup 53xx 高可用性構成へのパートナーノードの追加」を参照してください。

**19** すべてのアプライアンスが構成され稼働したら、バックアップするクライアントソフトウェアをコンピュータにインストールする準備が完了します。

p.80 の「NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード」を参照してください。

p.84 の「CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。

# NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスの初期構成を実行する

このトピックでは、新規または出荷時のデフォルト (出荷時の設定) にリセットされている NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスの構成方法について説明します。

この方法では、アプライアンスポート NIC1 (eth0) にノートパソコンを直接接続する必要があります。NetBackup 53xx シリーズのアプライアンスは、メディアサーバーとしてのみ構成できます。

高可用性構成の場合、この手順を使用して、設定手順に使用するノードを設定します。このアプライアンス (計算ノード) を設定してから高可用性構成を続行および完了する方法について詳しくは、手順 17 を参照してください。

このメディアサーバーの初期構成を実行する前に、すでに次のタスクを完了していることを確認してください。

- マスターサーバーとメディアサーバーが互換性のあるソフトウェアのバージョンであることを検証済みであること。
- マスターサーバー上の SERVERS リストにこのメディアサーバーのホスト名を追加済みであること。
  高可用性構成の場合、設定手順に使用するノードのホスト名が追加済みであること。
  p.30 の「マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信」を参照してください。
- マスターサーバーとこのメディアサーバーの間にファイアウォールがある場合は、マスターサーバーの該当するポートが開かれていること。
  p.30 の「マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信」を参照してください。
- 初期構成のチェックリストを完了したこと。

---

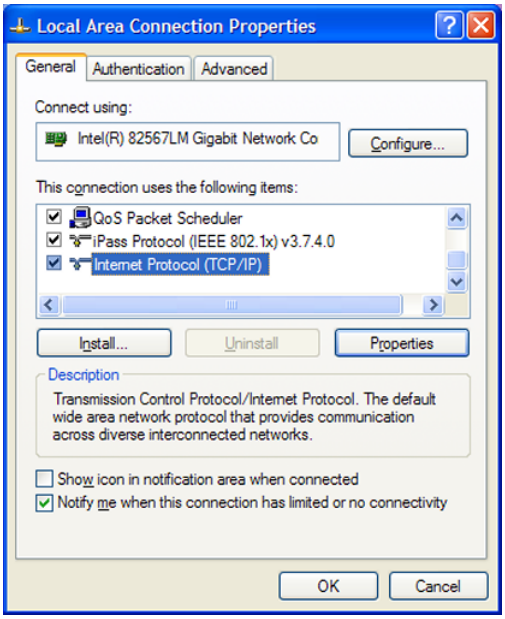
**注意:** アプライアンスは**メンテナンス**ユーザーアカウントの既知のデフォルトパスワードが設定された状態で提供されます。このパスワードは、アプライアンスのメンテナンスモードに不正にアクセスされないように、初期構成の前または直後に変更してください。なお、アプライアンスのトラブルシューティングサービスが必要な場合に、ベリタステクニカルサポートに**メンテナンス**ユーザーパスワードを知らせる必要があります。次に示す手順の手順 16 では、**メンテナンス**ユーザーパスワードの変更方法を説明しています。

---

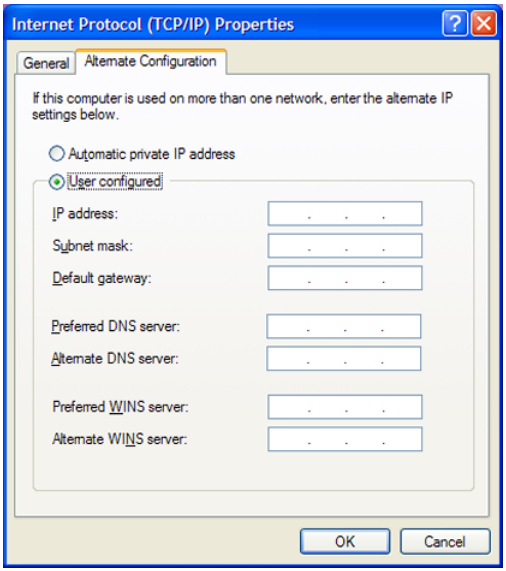
### NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx メディアサーバーアプライアンスの初期構成を実行するには

1 アプライアンスポート NIC1 にノートパソコンを接続します。次に、[ローカルエリアの接続プロパティ]ダイアログボックスに移動します。

[全般 (General)]タブで、[インターネットプロトコル (TCP/IP) (Internet Protocol (TCP/IP))]を選択してハイライト表示し、[プロパティ (Properties)]をクリックします。




[代替の構成 (Alternate Configuration)]タブで、次のタスクを実行します。




- ［ユーザー構成 (User Configured)］をクリックします。
- ［IP アドレス (IP address)］に、`192.168.229.nnn` と入力します。nnn は 2 ～ 254 (233 を除く)の任意の数字です。
- ［サブネットマスク (Subnet mask)］に、255.255.255.0 と入力します。
- ［OK］をクリックします。

**2** アプライアンスに接続しているノートパソコンで、SSH セッションを 192.168.229.233 に開きます。

**3** 次のようにデフォルトの資格情報でアプライアンスにログオンします。

- ［ユーザー名 (User Name)］: admin
- ［パスワード (Password)］: P@ssw0rd

ようこそメッセージがシェルメニューに表示され、Main_Menu ビューにプロンプトが表示されます。

---

**メモ:** 初期構成の続行には、デフォルトパスワードの変更は必須ではありません。ただし、環境のセキュリティを高めるためにパスワードを定期的に変更することをお勧めします。現在のパスワードの記録は安全な場所に保管するように徹底してください。NetBackup Appliance Shell Menuにログインしているときにパスワードを変更するには、Main_Menu ビューで `Settings > Password` と入力します。

---

**4** 初めて設定する前に次のコマンドを入力して、接続したハードウェアコンポーネントの状態を調べて確認します。

```
Support > Test Hardware
```

[警告 (Warning)]は後で解決できる問題を示します。この場合は、初期構成を続行できます。ただし、このような問題により、影響を受けるデバイスにアクセスできなくなります。

[エラー (Error)]は、初期構成を続行する前にすぐに解決する必要のある重要な問題を示します。

コマンド出力で問題を認識した場合には、以下の項目を調べます。

- すべてのケーブルが正しく接続され、固定されていることを確認します。
- すべてのディスクドライブが正しく設置され、固定されていることを確認します。
- すべてのユニットが電源オンであり、完全に起動していることを確認します。
- ハードウェアチェックリストの項目をすべてチェック済みであることを確認します。
- 以前の項目を検証した後、コマンドを再実行します。警告またはエラーアイコンが表示されなくなった場合は、問題が解決したことを示します。初期構成を開始する前にすべての問題を解決することをお勧めします。

---

**メモ:** 上記の項目すべてを検証してコマンドを再実行しても[エラー (Error)]の問題を解決できない場合は、そこで作業を中止してベリタスのテクニカルサポートに問い合わせてください。

---

**5** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを入力して、アプライアンスが接続する単一ネットワークの IP アドレスを設定します。

```
Configure IPAddressNetmaskGatewayIPAddress [InterfaceNames]
```

ここで、*IPAddress* は新しい IP アドレス、*Netmask* はネットマスク、*GatewayIPAddress* はインターフェースのデフォルトゲートウェイです。`[InterfaceNames]` オプションは省略可能です。

*IP Address* や *Gateway IP Address* には、IPv4 または IPv6 アドレスを指定できます。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。

ただし、同じコマンド内で IPv4 と IPv6 アドレスの両方は使わないでください。たとえば、`Configure 9ffe::9 255.255.255.0 1.1.1.1` は使えません。`Configure 9ffe::46 64 9ffe::49 eth1` を使ってください。

p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

複数のネットワークを構成する場合には、追加する各ネットワークの IP アドレスを最初に構成する必要があります。次に、追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスを構成します。必ずデフォルトゲートウェイアドレスを最初に追加する必要があります。以下の 2 つのコマンドを使います。

| | |
|---|---|
| 各ネットワークの IP アドレスの構成 | ネットワークインターフェースに対して IPv4 または IPv6 アドレスのどちらを構成するかに応じて、以下のコマンドのいずれかを使います。<br><br>ネットワークインターフェースの IPv4 アドレスを構成するには<br><br>`IPv4 IPAddressNetmask [InterfaceName]`<br><br>ここで、*IPAddress* は新しい IP アドレス、*Netmask* はネットマスクです。`[InterfaceName]` は省略可能です。追加する IP アドレスごとにこのコマンドを繰り返します。<br><br>ネットワークインターフェースの IPv6 アドレスを構成するには<br><br>IPv6 <*IP Address*> <Prefix> [InterfaceNames]<br><br>ここで、*IPAddress* は IPv6 アドレス、*Prefix* はプレフィックス長です。`[InterfaceName]` は省略可能です。 |

| | |
|---|---|
| 追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスの構成 | `Gateway Add GatewayIPAddress [TargetNetworkIPAddress] [Netmask] [InterfaceName]`<br><br>ここで、*GatewayIPAddress* はインターフェースのゲートウェイです。*TargetNetworkIPAddress*、*Netmask*、`InterfaceName` は省略可能です。このコマンドを繰り返して、すべての宛先ネットワークにゲートウェイを追加します。<br><br>*Gateway IP Address* や *TargetNetworkIPAddress* には、IPv4 または IPv6 アドレスを指定できます。<br><br>ただし、同じコマンド内で IPv4 と IPv6 アドレスの両方は使わないでください。たとえば、`Gateway Add 9ffe::3 255.255.255.0 eth1` は使えません。`Gateway Add 9ffe::3 6ffe:: 64 eth1` を使ってください。 |

**6** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、アプライアンスの DNS ドメイン名を設定します。

**メモ:** DNS を使わない場合は、ステップ 9 に進んでください。

```
DNS Domain Name
```

ここで、*Name* はアプライアンスの新しいドメイン名です。

**7** Main_Menu > Network ビューで、次のコマンドを使って DNS ネームサーバーをアプライアンス構成に追加します。

```
DNS Add NameServer IPAddress
```

ここで、*IPAddress* は DNS サーバーの IP アドレスです。

アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。

p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

複数の IP アドレスを追加するには、スペースを空けずに各アドレスをカンマで区切ります。

**8** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、DNS 検索ドメインをアプライアンス構成に追加し、異なるドメインにあるホスト名をアプライアンスが解決できるようにします。

```
DNS Add SearchDomain SearchDomain
```

ここで、*SearchDomain* は検索用に追加する対象ドメインです。

**9** このステップは省略可能です。ここでは、アプライアンスの hosts ファイルに、他のホストの IP アドレスを追加できます。

Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、ホストエントリをアプライアンスの hosts ファイルに追加します。

```
Hosts Add IPAddressFQHNShortName
```

ここで、*IPAddress* は IPv4 または IPv6 アドレス、*FQHN* は完全修飾ホスト名、*ShortName* は短いホスト名です。

p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

**10** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、アプライアンスのホスト名を設定します。

```
Hostname Set Name
```

*Name* は、このアプライアンスの短いホスト名または完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。

一部の例外を除き、ホスト名はアプライアンス構成全体に適用されます。短縮名は次の場所に常に表示されます。

- NetBackup Appliance Shell Menuプロンプト
- 重複排除プールカタログのバックアップポリシー
- デフォルトのストレージユニットおよびディスクプール名

このアプライアンスが出荷時の設定にリセットされていて、以前のバックアップイメージのいずれかをインポートする場合は、アプライアンスのホスト名が次のルールのいずれかを満たしている必要があります。

- ホスト名は出荷時の設定へのリセット前に使われるものとまったく同じである必要があります。
- FQDN にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた短い名前を含んでいる必要があります。たとえば、「myhost」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい FQDN として「myhost.domainname.com」を使います。
- 短いホスト名にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた FQDN から得られる名前にする必要があります。たとえば、「myhost.domainname.com」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい短いホスト名として「myhost」を使います。

---

**メモ:** ホスト名は初期構成セッションの間のみ設定することができます。初期構成が正常に完了した後、アプライアンスで出荷時の設定にリセットすると初期構成を再入力できます。詳しくは、『NetBackup appliance 管理者ガイド』を参照してください。

---

このステップにより、NetBackup は新しいホスト名で動作するように再構成されます。この処理は、完了するまでにしばらく時間がかかることがあります。

Hostname set コマンドが動作するためには、少なくとも 1 つの IPv4 アドレスが必要です。たとえば、特定のホストのホスト名を v46 に設定するとします。そのためには、まず、その特定のホストが少なくとも 1 つの IPv4 アドレスを持つことを確認した後、次のコマンドを実行します。

```
Main_Menu > Network > Hostname set v46
```

**11** 前述のネットワーク構成設定に加え、Main_Menu > Network ビューを使って、アプライアンスの初期設定時に結合を作成して VLAN をタグ付けすることもできます。

- 2 つ以上のネットワークインターフェース間に結合を作成するには、次のコマンドを使います。

  ```
  Network > LinkAggregation Create
  ```

- 物理インターフェースまたは結合インターフェースに VLAN をタグ付けするには、次のコマンドを入力します。

  ```
  Network > VLAN Tag
  ```

LinkAggregation と VLAN コマンドオプションについて詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

**12** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、このアプライアンスのタイムゾーン、日付および時間を設定します。

- 次のコマンドを入力して、タイムゾーンを設定します。

  ```
  TimeZone Set
  ```

  表示されたリストから該当するタイムゾーンを選択します。

- 次のコマンドを入力して、日付と時刻を設定します。

  ```
  Date Set MonthDayHHMMSSYear
  ```

  *Month* は月の名前です。
  *Day* は 0 から 31 までの日付です。
  *HHMMSS* は 24 時間形式の時、分、秒です。フィールドはセミコロンで区切ります (HH:MM:SS)。
  *Year* は、1970 から 2037 までの暦年です。

**13** Main_Menu > Settings ビューで次のコマンドを使って、SMTP サーバー名とアプライアンスのエラーアラート用の電子メールアドレスを入力します。

SMTP サーバー名の入力

```
Email SMTP Add smtp [acct] [pass]
```

ここで、*smtp* は対象 SMTP サーバーのホスト名、*acct* は SMTP サーバーに対する認証のアカウント名、*pass* は SMTP サーバーに対する認証のパスワードです。

電子メールアドレスの入力

```
Email Software Add eaddr
```

ここで、*eaddr* はアプライアンスからのエラーアラートを受信する電子メールアドレスです。

複数アドレスを入力するには、各アドレスをセミコロンで区切ります。

**14** このメディアサーバーと組み合わせて使うマスターサーバーを特定します。

---

**メモ:** 続行する前に、マスターサーバーにこのメディアサーバー名が追加されていることを確認します。p.30 の「マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信」を参照してください。

---

Main_Menu > Appliance ビューで、次のコマンドを実行します。

```
Media MasterServer
```

*MasterServer* がスタンドアロンのマスターサーバー、マルチホームマスターサーバー、またはクラスタ化されたマスターサーバーのいずれかである場合。それぞれのシナリオについて以下で説明します。

| | |
|---|---|
| スタンドアロンのマスターサーバー | このシナリオは、マスターサーバーホスト名が 1 つの場合です。この名前は、アプライアンスがネットワーク上でマスターサーバーを認識できていれば、完全修飾名である必要はありません。コマンドの表示例を次に示します。<br>`Media MasterServerName` |
| マルチホームマスターサーバー | このシナリオでは、マスターサーバーに複数のホスト名が関連付けられています。ホスト名の区切り文字としてカンマを使ってください。コマンドの表示例を次に示します。<br>`Media MasterNet1Name,MasterNet2Name` |
| クラスタ化されたマスターサーバー | このシナリオでは、マスターサーバーはクラスタにあります。ベリタスは、クラスタ名、クラスタのアクティブノード、クラスタのパッシブノードの順でリストにすることをお勧めします。このリストでは、カンマを使ってノード名を区切ります。コマンドの表示例を次に示します。<br>`Media MasterClusterName,ActiveNodeName,PassiveNodeName` |
| マルチホームクラスタ化されたマスターサーバー | このシナリオでは、マスターサーバーはクラスタにあり、関連付けられている複数のホスト名があります。ベリタスは、クラスタ名、クラスタのアクティブノード、クラスタのパッシブノードの順でリストにすることをお勧めします。このリストでは、カンマを使ってノード名を区切ります。コマンドの表示例を次に示します。<br>`Media MasterClusterName,ActiveNodeName,`<br>`PassiveNodeName,MasterNet1Name,MasterNet2Name`<br>アプライアンスの役割を設定するときに、今後問題が起こらないようにするため、ベリタスは関連付けられているすべてのマスターサーバー名を設定することをお勧めします。 |

CA 証明書の詳細が表示されたら、詳細を確認し、yes と入力します。

```
>> Do you trust the CA certificate? [yes, no] yes
```

ホストIDベースの証明書の配備が必要な場合はトークンを入力します。次のプロンプトを参照してください。

```
>> Enter token:
```

セキュリティ証明書について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup のセキュリティ証明書」の章を参照してください。

---

**メモ:** マスターサーバーのホスト名が FQDN の場合は、FQDN を使ってメディアサーバーのマスターサーバーを指定することをお勧めします。

---

**メモ:** 役割の構成を完了すると、ストレージの初期化が開始します。システムのディスクドライブの数によってはストレージの初期化が完了するまでに最長 46 時間かかることがあります。その結果、アプライアンスのバックアップと復元のパフォーマンスは、ストレージの初期化処理が完了するまで低下します。

---

**15** ストレージの初期化処理を開始すると、AdvancedDisk と重複排除 (MSDP) のパーティションについてディスクストレージのプロンプトが表示されます。

ストレージパーティションを構成するには、次を実行する必要があります。

- ストレージプールのサイズを GB または TB 単位で入力します。
  ストレージプールサイズの構成をスキップするパーティションがある場合は、サイズの入力を求められたときに 0 を入力します。ストレージプールを現在のサイズに保持するには、Enter を押します。
- ディスクプール名を入力します。
  デフォルトの名前は、AdvancedDisk の場合は *dp_adv_<hostname>*、重複排除 (MSDP) の場合は *dp_disk_<hostname>* です。デフォルト名を保持するには、Enter を押します。
- ストレージプール名を入力します。
  デフォルトの名前は、AdvancedDisk の場合は *stu_adv_<hostname>*、重複排除 (MSDP) の場合は *stu_disk_<hostname>* です。デフォルト名を保持するには、Enter を押します。

ストレージのプロンプトが次の順序で表示されます。

```
AdvancedDisk storage pool size in GB/TB [default size]:
AdvancedDisk diskpool name:
AdvancedDisk storage unit name:
MSDP storage pool size in GB/TB [default size]:
```

```
MSDP diskpool name:
MSDP storage unit name:
```

ストレージパーティションの構成後、ストレージの構成の概略が次のプロンプトとともに表示されます。

```
Do you want to edit the storage configuration? [yes, no]
```

変更を実行する場合は yes、現在の構成を保持する場合は no と入力します。

**16** 次のように、デフォルトの `Maintenance` ユーザーパスワードを変更します。

- `Main_Menu > Support > Maintenance` コマンドを入力します。
- パスワードプロンプトで、デフォルトの**メンテナンス**ユーザーパスワード (`P@ssw0rd`) を入力します。
- **メンテナンス**シェルプロンプトで `passwd` コマンドを入力してパスワードを変更します。
- `Exit` と入力すると NetBackup Appliance Shell Menuに戻ります。

`Support > Maintenance` コマンドの使用について詳しくは、『NetBackup アプライアンスコマンドリファレンスガイド』を参照してください。

**17** 高可用性ソリューションの場合は、パートナーノードで初期構成を実行する前に、この構成済みアプライアンス (計算ノード) で高可用性構成を設定する必要があります。高可用性構成を続行して完了するには、次のタスクを記載されている順番どおりに実行します。

p.60 の「NetBackup 53xx 高可用性構成の設定」を参照してください。

p.65 の「NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx 高可用性構成のパートナーノードの初期構成を実行する」を参照してください。

p.72 の「NetBackup 53xx 高可用性構成へのパートナーノードの追加」を参照してください。

**18** すべてのアプライアンスが構成され稼働したら、バックアップするクライアントソフトウェアをコンピュータにインストールする準備が完了します。

p.80 の「NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード」を参照してください。

p.84 の「CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。

# NetBackup 53xx 高可用性構成の設定

NetBackup Appliance Web Consoleまたは NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx 高可用性 (HA) 構成を設定できます。

この手順では、中に、ホスト名と設定済みの最初のノードの IP アドレスが昇格されました。特権が与えられたホスト名と IP アドレスは、仮想ホスト名と、HA 設定の仮想 IP アドレスとしての作業をします。仮想ホスト名と仮想 IP アドレスは、HA 設定では浮動ポインタです。

この昇格のために、新しいホスト名と一致する IP アドレスをノードに割り当てる必要があります。

---

**メモ:** 続行する前に、NetBackup 管理コンソールの［ホスト名マッピング (Host Name Mappings)］プロパティに新しいホスト名を追加する必要があります。新しいホスト名をプロパティに追加するには、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「ホスト ID からホスト名へのマッピング」セクションを参照してください。

---

使用する場合、NetBackup を管理するクライアント、NetBackup ジョブの場合、クライアント上の`bp.conf`ファイルには次の情報を追加します。

- 設定済みの最初のノードのホスト名
- 新しいホスト名
- パートナー ノードのホスト名

eth2 ポートと eth3 ポートでネットワークが結合されている場合は、この結合を削除します。

---

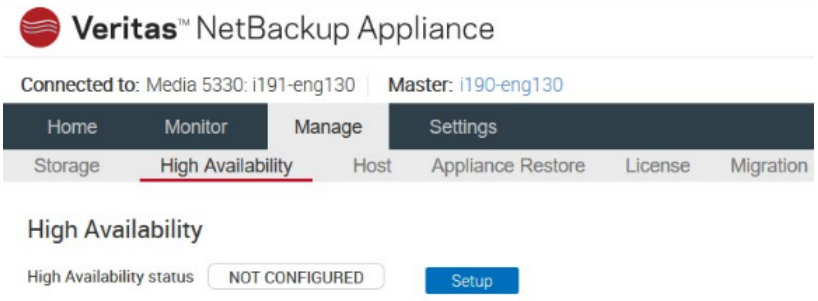
**注意:** 手順が完了すると、出荷時の設定にリセットするまでノードのホスト名を変更することはできません。

---

**NetBackup Appliance Web Consoleを使用して NetBackup 53xx HA 構成を設定するには**

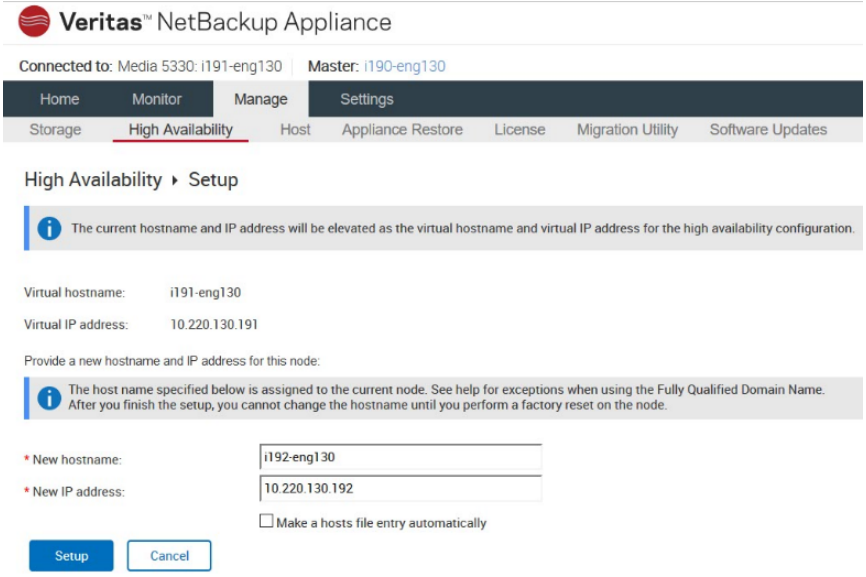
1. 構成ノードで、`admin` として NetBackup Appliance Web Consoleにログオンします。
2. ［Veritas NetBackup Appliance Web コンソールへようこそ (Welcome to Veritas NetBackup Appliance Web Console)］ページで、［管理 (Manage)］、［高可用性 (High Availability)］をクリックします。

**3** [高可用性 (High Availability)]ページで、[設定 (Setup)]をクリックします。

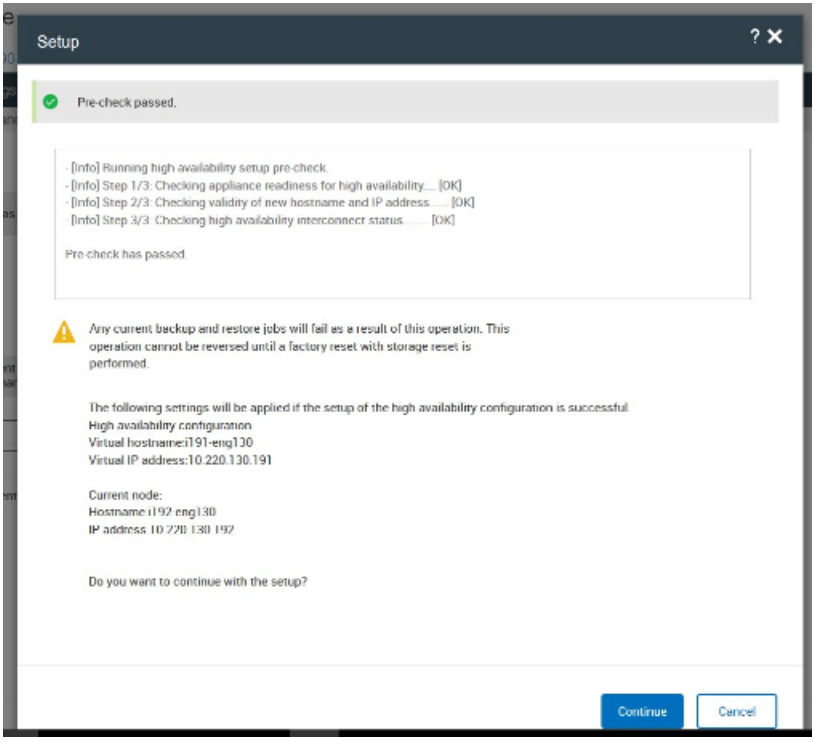



**4** [高可用性 (High Availability)] > [設定 (Setup)]ページで、構成済みノードの新しいホスト名と IP アドレスを入力します。`/etc/hosts`ファイルに新しいホスト名と IP アドレスを追加する必要がある場合は、チェックボックスにチェックマークを付けます。

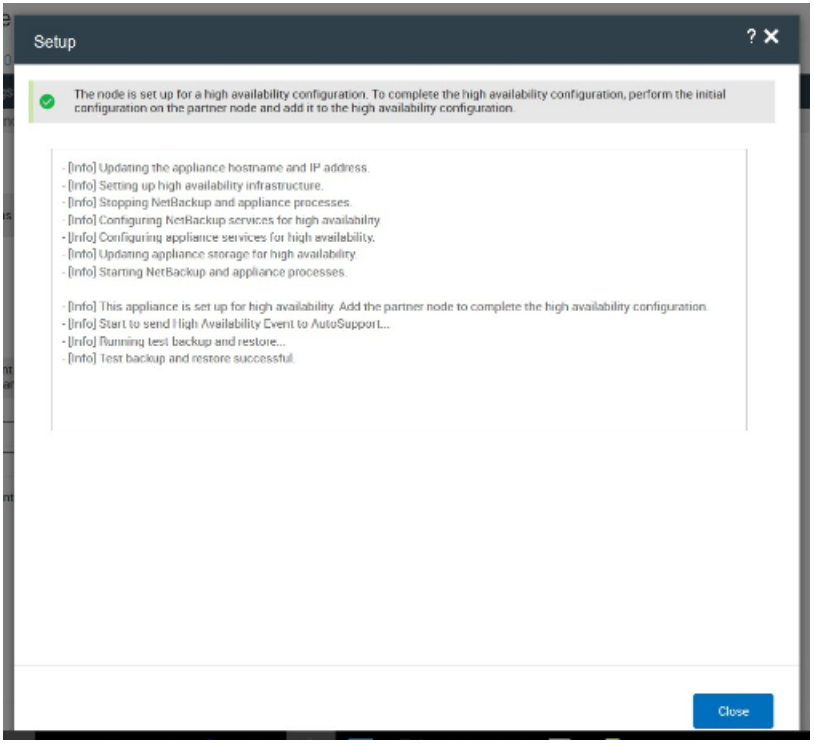
[設定 (Setup)]をクリックして手順を進めます。



**5** 事前チェックがパスしたことを示すメッセージが表示されたら、[続行 (Continue)]をクリックします。



**6** 現在のアプライアンスが高可用性構成で設定されていることを示すメッセージが表示されたら、[閉じる (Close)]をクリックします。




**7** 後、ホスト名とIPアドレスが変更されました、このノードおよびこれら両方で、変更し、HA 設定では認識されていることを確認するマスター サーバー上の NetBackup サービスを再起動します。

**NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx HA 構成を設定するには**

**1** 構成済みノードで、`admin` として NetBackup Appliance Shell Menuにログオンします。

**2** **[メイン** `(Main)]` > **[管理** `(Manage)]` > **[高可用性** `(HighAvailability)]`に移動します。

3 次のコマンドを使用して構成済みノードに新しいホスト名と IP アドレスを割り当て、手順を開始します。

```
Setup NewHostnameNewIPAddress
```

*NewHostname* はノードの新しいホスト名、*NewIPAddress* はノードの新しい IP アドレスを示します。

4 後、ホスト名と IP アドレスが変更されました、このノードおよびこれら両方で、変更し、HA 設定では認識されていることを確認するマスター サーバー上の NetBackup サービスを再起動します。

ノードは設定する、ノードの新しいネットワーク情報は、マスター サーバーで追加サーバーリストに自動的に追加します。

HA 設定では、完了に示すように順序で、次の手順を実行します。

- パートナーノードで初期構成を実行する。
  p.65 の「NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx 高可用性構成のパートナーノードの初期構成を実行する」を参照してください。
- 高可用性構成にパートナーノードを追加する。
  p.72 の「NetBackup 53xx 高可用性構成へのパートナーノードの追加」を参照してください。

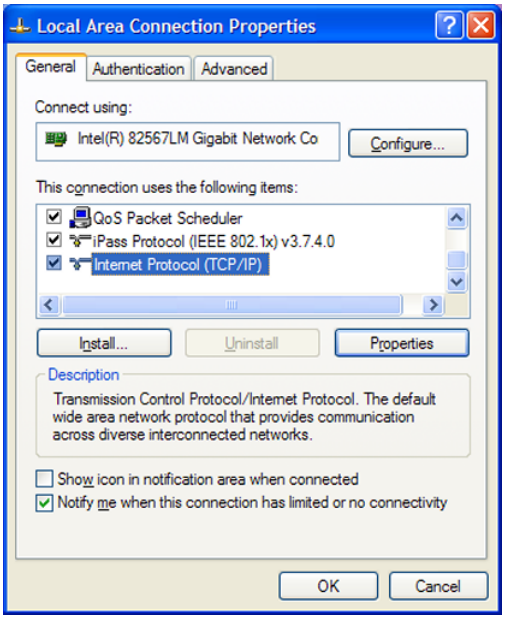
# NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx 高可用性構成のパートナーノードの初期構成を実行する

パートナーノードは、NetBackup 53xx 高可用性 (HA) 構成で使用するもう一つの NetBackup 53xx 計算ノードです。構成する必要があるのは、パートナーノードのネットワーク設定およびタイムゾーン情報のみです。

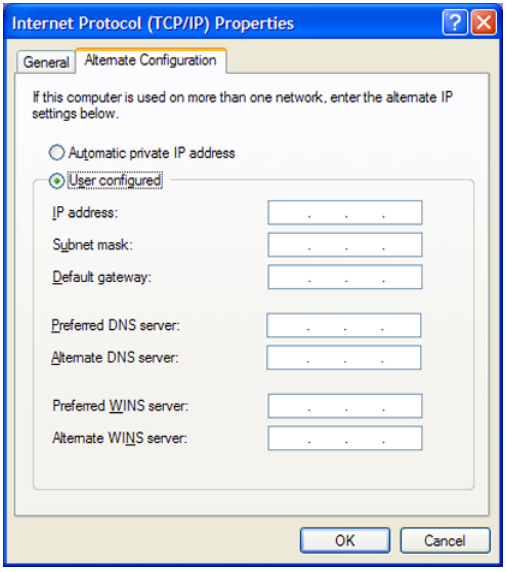
**パートナーノードを構成するには**

1 パートナーノードの NIC1 ポートにノートパソコンを接続します。次に、[ローカルエリアの接続プロパティ]ダイアログボックスに移動します。

[全般 (General)]タブで、[インターネットプロトコル (TCP/IP) (Internet Protocol (TCP/IP))]を選択してハイライト表示し、[プロパティ(Properties)]をクリックします。




［代替の構成 (Alternate Configuration)］タブで、次のタスクを実行します。




- ［ユーザー構成 (User Configured)］をクリックします。

- ［IP アドレス (IP address)］に、192.168.229.nnn と入力します。nnn は 2 ～ 254 (233 を除く)の任意の数字です。
- ［サブネットマスク (Subnet mask)］に 255.255.255.0 と入力して［OK］をクリックします。

**2** パートナーノードに接続しているノートパソコンで、SSH セッションを 192.168.229.233 に開きます。

**3** 次のようにデフォルトの資格情報でパートナーノードにログオンします。

- ［ユーザー名 (User Name)］: admin
- ［パスワード (Password)］: P@ssw0rd

ようこそメッセージがシェルメニューに表示され、Main_Menu ビューにプロンプトが表示されます。

---

**メモ:** 初期構成の続行には、デフォルトパスワードの変更は必須ではありません。ただし、環境のセキュリティを高めるためにパスワードを定期的に変更することをお勧めします。現在のパスワードの記録は安全な場所に保管するように徹底してください。NetBackup Appliance Shell Menuにログインしているときにパスワードを変更するには、Main_Menu ビューで `Settings > Password` と入力します。

---

**4** 初めて設定する前に次のコマンドを入力して、接続したハードウェアコンポーネントの状態を調べて確認します。

```
Support > Test Hardware
```

［警告 (Warning)］は後で解決できる問題を示します。この場合は、初期構成を続行できます。ただし、このような問題により、影響を受けるデバイスにアクセスできなくなります。

［エラー (Error)］は、初期構成を続行する前にすぐに解決する必要のある重要な問題を示します。

コマンド出力で問題を認識した場合には、以下の項目を調べます。

- すべてのケーブルが正しく接続され、固定されていることを確認します。
- すべてのディスクドライブが正しく設置され、固定されていることを確認します。
- すべてのユニットが電源オンであり、完全に起動していることを確認します。
- ハードウェアチェックリストの項目をすべてチェック済みであることを確認します。
- 以前の項目を検証した後、コマンドを再実行します。警告アイコンまたはエラーアイコンが表示されなくなった場合は、問題が解決したことを示します。初期構成を開始する前にすべての問題を解決することをお勧めします。

**メモ:** 上記の項目すべてを検証してコマンドを再実行しても[エラー (Error)]の問題を解決できない場合は、そこで作業を中止してベリタスのテクニカルサポートに問い合わせてください。

**5** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを入力して、パートナーノードが接続する単一ネットワークの IP アドレスを設定します。

```
Configure IPAddressNetmaskGatewayIPAddress[[InterfaceName]]
```

ここで、*IPAddress* は新しい IP アドレス、*Netmask* はネットマスク、*GatewayIPAddress* はインターフェースのデフォルトゲートウェイです。[[InterfaceName]] オプションは省略可能です。

*IPAddress* または *GatewayIPAddress* には IPv4 または IPv6 アドレスを指定できます。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。

ただし、同じコマンド内で IPv4 と IPv6 アドレスの両方は使わないでください。たとえば、`Configure 9ffe::9 255.255.255.0 1.1.1.1` は使えません。`Configure 9ffe::46 64 9ffe::49 eth1` を使ってください。

p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

複数のネットワークを構成する場合には、追加する各ネットワークの IP アドレスを最初に構成する必要があります。次に、追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスを構成します。必ずデフォルトゲートウェイアドレスを最初に追加する必要があります。以下の 2 つのコマンドを使います。

| | |
|---|---|
| 各ネットワークの IP アドレスの構成 | ネットワークインターフェースに対して IPv4 または IPv6 アドレスのどちらを構成するかに応じて、以下のコマンドのいずれかを使います。<br><br>ネットワークインターフェースの IPv4 アドレスを構成するには<br><br>`IPv4 IPAddressNetmask [InterfaceName]`<br><br>ここで、*IPAddress* は新しい IP アドレス、*Netmask* はネットマスクです。`[InterfaceName]` は省略可能です。追加する IP アドレスごとにこのコマンドを繰り返します。<br><br>ネットワークインターフェースの IPv6 アドレスを構成するには<br><br>IPv6 <*IP Address*> <Prefix> [InterfaceNames]<br><br>ここで、*IPAddress* は IPv6 アドレス、*Prefix* はプレフィックス長です。`[InterfaceName]` は省略可能です。 |

| | |
|---|---|
| 追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスの構成 | `Gateway Add` *`GatewayIPAddress`* `[TargetNetworkIPAddress] [Netmask] [InterfaceName]`<br><br>ここで、*GatewayIPAddress* はインターフェースのゲートウェイです。*TargetNetworkIPAddress*、*Netmask*、`InterfaceName` は省略可能です。このコマンドを繰り返して、すべての宛先ネットワークにゲートウェイを追加します。<br><br>*Gateway IP Address* や *TargetNetworkIPAddress* には、IPv4 または IPv6 アドレスを指定できます。<br><br>ただし、同じコマンド内で IPv4 と IPv6 アドレスの両方は使わないでください。たとえば、`Gateway Add 9ffe::3 255.255.255.0 eth1` は使えません。`Gateway Add 9ffe::3 6ffe:: 64 eth1` を使ってください。 |

**6** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを入力して、パートナーノードの DNS を設定します。

**メモ:** DNS を使わない場合は、ステップ 9 に進んでください。

`DNS Domain` *`Name`*

ここで、*Name* はパートナーノードのドメイン名です。

**7** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを入力して、パートナーノードの構成に DNS ネームサーバーを追加します。

`DNS Add NameServer` *`IPAddress`*

ここで、*IPAddress* は DNS サーバーの IP アドレスです。

アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。

p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

複数の IP アドレスを追加するには、スペースを空けずに各アドレスをカンマで区切ります。

**8** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、DNS 検索ドメインをパートナーノード構成に追加し、異なるドメインにあるホスト名をパートナーノードが解決できるようにします。

`DNS Add SearchDomain` *`SearchDomain`*

ここで、*SearchDomain* は検索用に追加する対象ドメインです。

**9** このステップは省略可能です。hosts ファイルに他のホストの IP アドレスを追加する場合のみ続行します。それ以外の場合は、次の手順にスキップします。

Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを入力して、ホストエントリをパートナーノードの hosts ファイルに追加します。

```
Hosts Add IPAddressFQHNShortName
```

ここで、*IPAddress* は IPv4 または IPv6 アドレス、*FQHN* は完全修飾ホスト名、*ShortName* は短いホスト名です。

p.12 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

**10** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを入力して、パートナーノードのホスト名を設定します。

```
Hostname Set Name
```

ここで、*Name* はパートナーノードの短いホスト名または完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。

一部の例外を除き、ホスト名は構成全体に適用されます。短縮名は次の場所に常に表示されます。

- NetBackup Appliance Shell Menuプロンプト
- 重複排除プールカタログのバックアップポリシー
- デフォルトのストレージユニットおよびディスクプール名

このノードが出荷時の設定にリセットされていて、以前のバックアップイメージのいずれかをインポートする場合は、ノードのホスト名が次のルールのいずれかを満たしている必要があります。

- ホスト名は出荷時の設定へのリセット前に使われるものとまったく同じである必要があります。
- FQDN にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた短い名前を含んでいる必要があります。たとえば、「myhost」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい FQDN として「myhost.domainname.com」を使います。
- 短いホスト名にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた FQDN から得られる名前にする必要があります。たとえば、「myhost.domainname.com」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい短いホスト名として「myhost」を使います。

---

**メモ:** ホスト名は初期構成セッションの間のみ設定することができます。初期構成が正常に完了した後、パートナーノードで出荷時の設定にリセットすると初期構成を再入力できます。詳しくは、『NetBackup appliance 管理者ガイド』を参照してください。

---

このステップにより、NetBackup は新しいホスト名で動作するように再構成されます。この処理は、完了するまでにしばらく時間がかかることがあります。

`Hostname set` コマンドが動作するためには、少なくとも 1 つの IPv4 アドレスが必要です。たとえば、特定のホストのホスト名を v46 に設定するとします。そのためには、まず、その特定のホストが少なくとも 1 つの IPv4 アドレスを持つことを確認した後、次のコマンドを実行します。

```
Main_Menu > Network > Hostname set v46
```

**11** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、このパートナーノードのタイムゾーン、日付、および時間を設定します。

- 次のコマンドを入力して、タイムゾーンを設定します。

  `TimeZone Set`

  表示されたリストから該当するタイムゾーンを選択します。

- 次のコマンドを入力して、日付と時刻を設定します。

  `Date Set` *`MonthDayHHMMSSYear`*

  *Month* は月の名前です。

  *Day* は 0 から 31 までの日付です。

  *HHMMSS* は 24 時間形式の時、分、秒です。フィールドはセミコロンで区切ります (HH:MM:SS)。

  *Year* は、1970 から 2037 までの暦年です。

  HA 構成の既存のノードと同じ日付と時刻を設定することをお勧めします。

パートナーノードを構成したら、このパートナーノードを HA 構成に追加する必要があります。

p.72 の「NetBackup 53xx 高可用性構成へのパートナーノードの追加」を参照してください。

# NetBackup 53xx 高可用性構成へのパートナーノードの追加

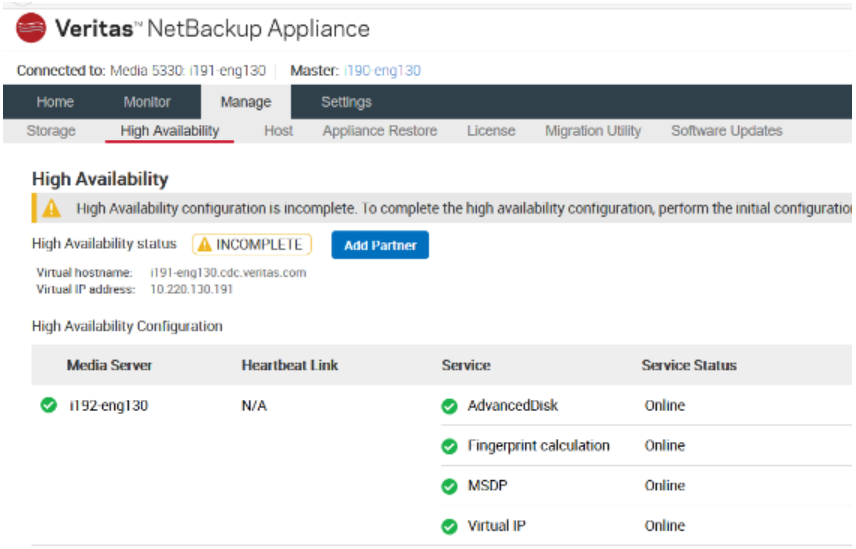
パートナーノードが構成されたら、それを次のように NetBackup Appliance Web Console または NetBackup Appliance Shell Menuを使用して追加し、高可用性 (HA) 構成を完了できます。

パートナーノードで初期構成を実行する手順については、以下を参照してください。

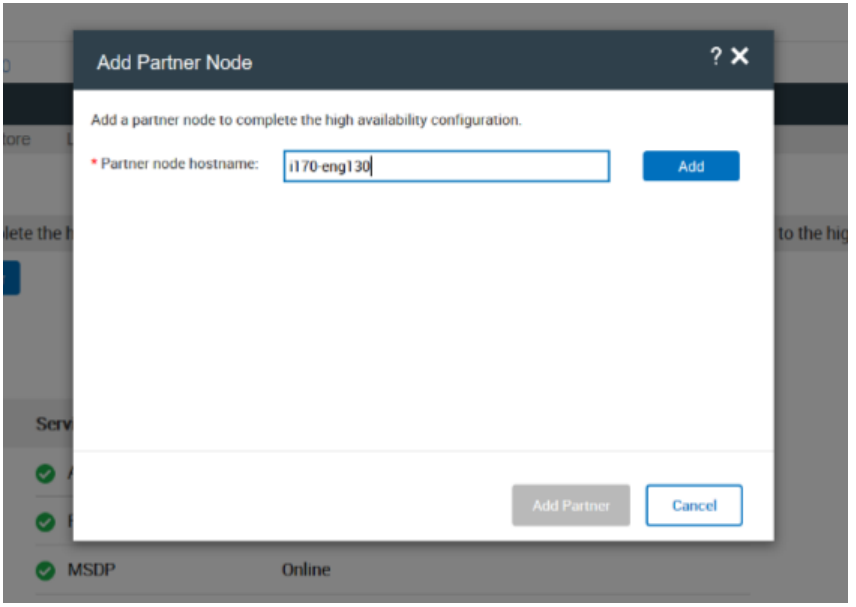
p.65 の「NetBackup Appliance Shell Menuを使用して NetBackup 53xx 高可用性構成のパートナーノードの初期構成を実行する」を参照してください。

**NetBackup Appliance Web Consoleを使用してパートナーノードを追加するには**

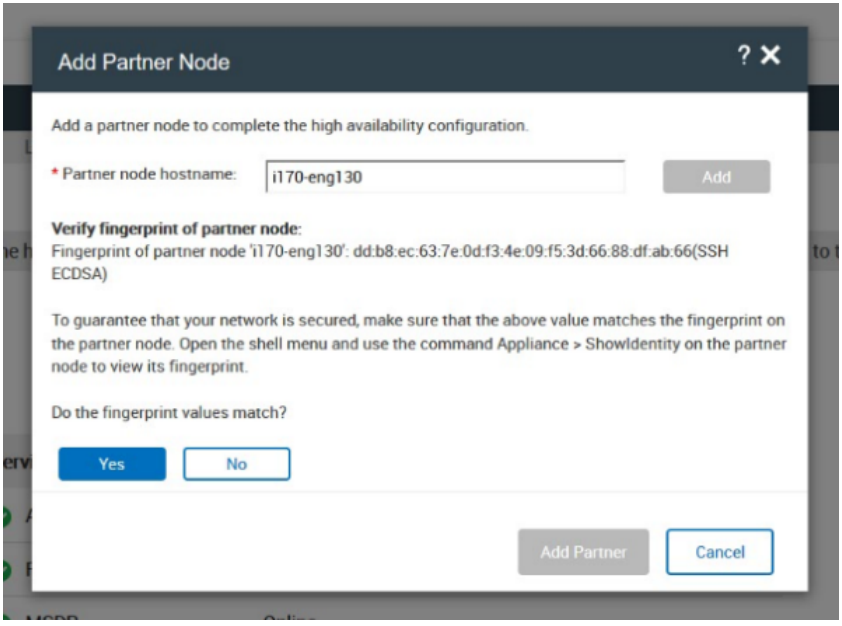
1. HA 構成を設定するノードで、NetBackup Appliance Web Consoleに `admin` としてログオンします。
2. [Veritas NetBackup Appliance Web コンソールへようこそ (Welcome to Veritas NetBackup Appliance Web Console)]ページで、[管理 (Manage)]、[高可用性 (High Availability)]をクリックします。
3. [高可用性 (High Availability)]ページで、HA 構成の現在の状態が未完了と識別されます。[パートナーの追加 (Add Partner)]をクリックします。



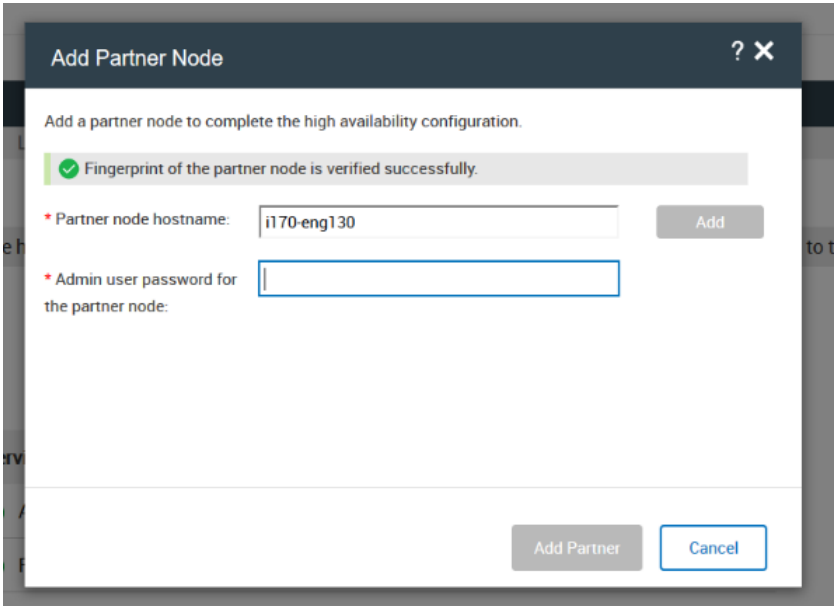
**4** [パートナーノードの追加 (Add Partner Node)]ダイアログボックスで、パートナーノードの構成済みのホスト名を入力し、[追加 (Add)]をクリックします。



**5** フィンガープリント値が一致した場合は、[はい (Yes)]をクリックします。

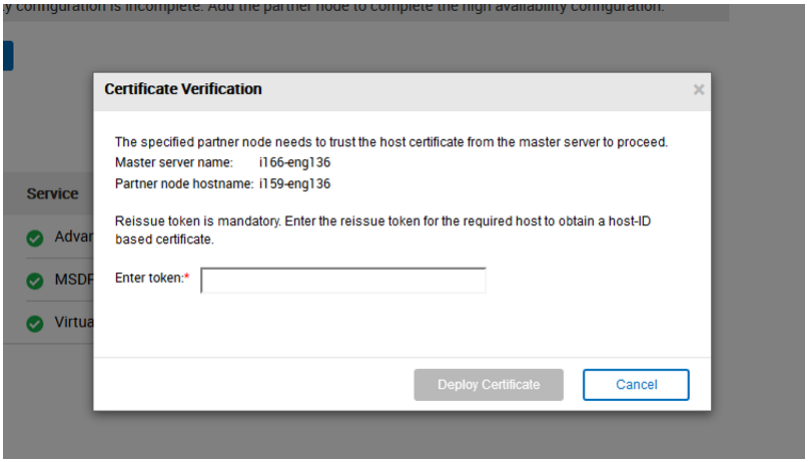


6 パートナーノードの admin ユーザーのパスワードを入力し、[パートナーの追加 (Add Partner)]をクリックします。




7 [続行しますか。(Do you want to continue ?)]というメッセージが表示されたら、[続行 (Continue)]をクリックします。

8 [証明書の検証 (Certificate Verification)]ダイアログボックスが表示される場合、認証トークンまたは再発行トークンを入力し、[証明書の配備 (Deploy Certificate)]をクリックします。




9 HA 構成が完了したことを表示するメッセージが表示されたら、[閉じる (Close)]をクリックします。

**NetBackup Appliance Shell Menuを使用してパートナーノードを追加するには**

1 HA 構成を設定するノードで、NetBackup Appliance Shell Menuに `admin` としてログオンします。

2 **[メイン** `(Main)]` > **[管理** `(Manage)]` > **[高可用性** `(HighAvailability)]`に移動します。

3 パートナーノードを追加してから、次のコマンドを入力して HA 構成を完了します。

```
AddNode hostname
```

*hostname* は、パートナーノードの短いホスト名または完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。

4 次のメッセージが表示されたら、パートナーノードで直接 SSH ECDSA フィンガープリントをチェックしたことを確認します。

```
Do the fingerprint values match? [yes, no] (no)
```

ネットワークが安全であることを保証するには、パートナーノードの SSH ECDSA フィンガープリントが正しいことを確認する必要があります。アプライアンスの ID を確認する方法については、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

値が一致した場合、yes と入力します。

**5** 事前チェックが成功した後に、次のメッセージのいずれかが表示されたら、認証トークンまたは再発行トークンを入力して、ホスト ID ベースの証明書を信頼します。

**認証トークンは必須です。認証トークンを入力してください。認証トークンについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。**

**トークンを入力してください：**

または

**再発行トークンは必須です。ホスト ID ベースの証明書を取得するために必要なホストの再発行トークンを入力してください。再発行トークンについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。**

**トークンを入力してください：**

セキュリティ証明書について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup のセキュリティ証明書」の章を参照してください。

**6** 次のメッセージが表示されたら、yes と入力し、ノードの追加手順を続行します。

```
>> Do you want to continue? [yes, no] (no)
```

手順が成功したことを示すメッセージが表示されたら、HA 構成は完了です。

---

**警告:** HA 構成が完了したら、2 つのノードの時刻の設定は変更しないでください。

---

パートナーノードを追加すると、パートナーノードのネットワーク情報がマスターサーバー上の追加サーバーリストに自動的に追加されます。HA 構成の 2 つのノードと共有プライマリストレージシェルフの各ファームウェアに同じ資産タグが自動的に割り当てられます。変更を確実に反映するには、2 つのノードを再起動することをお勧めします。

3

# 構成後の手順

この章では以下の項目について説明しています。


- NetBackup アプライアンスでの NIC1 (eth0) ポートの使用について
- NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード
- NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理コンソールのダウンロード
- CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール


## NetBackup アプライアンスでの NIC1 (eth0) ポートの使用について

デフォルトでは、NIC1 (eth0) は出荷時に IP アドレス 192.168.229.233 に設定されます。このプライベートネットワークのアドレスは、ノートパソコンからの直接接続によって初期構成を実行できるように予約されています。NIC1 (eth0) は、通常、ネットワーク環境に接続されません。

初期構成を完了すると、バックアップデータ転送を行わない管理ネットワークに NIC1 (eth0) を接続できます。ただし、プライマリネットワークが同じ IP アドレス範囲を使用する場合は、デフォルト IP アドレスの変更が必要になることがあります。NetBackup アプライアンスは、NIC1 (eth0) で管理者インターフェイスのデフォルト IP アドレスと同じ範囲においてネットワーク構成を使用できません。

例えば、NIC2 (eth1) が 192.168.x.x IP アドレス範囲に設定されている場合、NIC1 (eth0) のデフォルトの IP アドレスを別の IP アドレス範囲に変更する必要があります。

初期構成を完了した後に NIC1 (eth0) の IP アドレスを変更するには、次のいずれかを実行します。

- NetBackup Appliance Web Consoleで次の操作を実行します。

アプライアンスにログインしたら、[設定 (Settings)]>[ネットワーク (Network)]>[ネットワーク設定 (Network Settings)]の順にクリックします。[ネットワーク構成 (Network Configuration)]セクションで、NIC1 (eth0) の IPv4 アドレス設定を編集します。
詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。

- NetBackup Appliance Shell Menuで次の操作を実行します。
  アプライアンスにログインしたら、[**ネットワーク** (Network)]>[IPv4 (IPv4)]コマンドを使用して NIC1 (eth0) の IP アドレスを変更します。
  詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

---

**メモ:** アプライアンスで eth0 が構成されていない場合は、NetBackup Appliance Web Consoleからのチェックポイント操作が機能しません。この問題は、ポートの IP アドレスの構成を削除した場合にのみ発生します。この問題が発生した場合は、ポートを構成するか、NetBackup Appliance Shell Menuを使ってチェックポイントを作成するか、またはチェックポイントにロールバックします。ベストプラクティスとして、NIC1 (eth0) を使わない場合にも、IP アドレスを使って構成しておいてください。

---

# NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード

NetBackup クライアントソフトウェアは、NetBackup appliance からバックアップを作成する任意のクライアントにダウンロードできます。NetBackup Appliance Web Consoleのログオンページには、クライアントパッケージをダウンロードするための[パッケージのダウンロード (Download Packages)]セクションがあります。

パッケージは、ドロップダウンボックス内でオペレーティングシステムの種類ごとに次のように表示されます。

- すべて (All)
- Windows
- Linux
- Solaris
- AIX
- HP
- BSD
- Mac OS
- VMware vCenter プラグイン

**メモ:** Linux、UNIX、Solaris、AIX、または BSD パッケージをダウンロードする場合、ベリタスは、GNU tar バージョン 1.16 以上を使用して .tar パッケージを抽出することをお勧めします。

詳しくは、ベリタスのサポート Web サイトの次の TechNote を参照してください。

https://www.veritas.com/docs/TECH154080

この手順には、ダウンロード方法以外にも、クライアント上のダウンロード済みファイルを抽出およびインストールする手順が含まれています。

**NetBackup appliance からクライアントに NetBackup クライアントパッケージをダウンロードする方法**

1. バックアップするクライアントにログインします。
2. ブラウザウィンドウを開き、アプライアンス URL を入力します。
3. ランディングページの中央の［パッケージのダウンロード (Download Packages)］セクションで、ドロップダウンボックスをクリックしてパッケージのリストを表示します。
4. 選択したパッケージを右クリックして、クライアント上のダウンロード場所を指定します。

   場所の例は次のとおりです。

   - Windows プラットフォームでは、`C:¥temp` またはデスクトップにパッケージをダウンロードします。
     Windows システムでハードウェアの種類を判断するには、［マイコンピューター］を右クリックし、［プロパティ］を選択します。
   - Linux または UNIX プラットフォームでは、`/tmp` にパッケージをダウンロードします。

   **メモ:** 選択後に「パッケージがありません (No packages found)」というメッセージが表示された場合、現在アプライアンスにはクライアントパッケージがインストールされていません。この状況が起きる可能性が高いのは、アプライアンスを USB フラッシュドライブから再イメージした場合です。アプライアンスにクライアントパッケージをダウンロードしてインストールする場合は、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。「NetBackup Appliance Web Console で NetBackup Appliance を管理する」の章で、「手動ダウンロード方法を使った NetBackup Appliance ソフトウェアリリース更新またはクライアントパッケージのアップロード」を参照してください。

5. パッケージを圧縮解除します。
6. クライアントソフトウェアを次のようにインストールします。

   - Windows システム

setup.exe ファイルをクリックします。

- UNIX システム
  .install スクリプトを実行します。

7 正常にクライアントソフトウェアをインストールした後、次のようにアプライアンスマスターサーバーの名前をクライアントに追加する必要があります。

**Windows システム**

- NetBackup をクライアントにインストールした後、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
  [スタート (Start)]>[すべてのプログラム (All Programs)]>[Veritas NetBackup]>[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]
- バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースから、[ファイル (File)]>[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]の順に選択します。
- [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログで、[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]フィールドにサーバーの名前を入力します。次に、[サーバーリストの編集 (Edit Server List)]、[OK] の順にクリックします。
- 表示されるダイアログボックスで、アプライアンスマスターサーバーの完全修飾ホスト名を入力し、[OK]をクリックします。
- バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを閉じます。
- Windows コマンドプロンプトを開いて、NetBackup クライアントサービスを再起動します。次に、services.msc と入力し、Enter キーを押します。

**UNIX システム**

- クライアントで、次の場所にナビゲートします。
  cd /usr/openv/netbackup
- ls と入力し、ディレクトリの内容を参照します。
- bp.conf ファイルをテキストエディタで開きます。
- アプライアンスマスターサーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
- 変更を保存してファイルを閉じます。

p.84 の「CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。

p.83 の「NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理コンソールのダウンロード」を参照してください。

# NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理コンソールのダウンロード

NetBackup appliance からアプライアンスへのアクセスに使う Windows コンピュータに NetBackup 管理コンソールソフトウェアをダウンロードできます。Windows コンピュータでは、NetBackup をインストールしなくても管理コンソールを使うことができます。NetBackup Appliance Web Consoleのログオンページには、NetBackup 管理コンソールのパッケージをダウンロードする[パッケージのダウンロード (Download Packages)]セクションがあります。

この手順には、ダウンロード方法以外にも、クライアント上のダウンロード済みファイルを抽出およびインストールする手順が含まれています。

**NetBackup appliance から Windows コンピュータに NetBackup 管理コンソールのパッケージをダウンロードする方法**

1. アプライアンスへのアクセスに使用する Windows コンピュータにログインします。
2. ブラウザウィンドウを開き、アプライアンス URL を入力します。
3. ランディングページの中央の[パッケージのダウンロード (Download Packages)]セクションで、ドロップダウンボックスをクリックし、[Windows]を選択します。
4. ドロップダウンボックスの下にパッケージファイル名が表示されたら、それを右クリックして[リンクされたファイルのダウンロード (Download Linked File)]または[リンクされたファイルを名前をつけてダウンロード (Download Linked File As)]のいずれかを選択し、パッケージをダウンロードする Windows コンピュータ内の場所を指定します。

   たとえば、`C:¥temp` またはデスクトップにパッケージをダウンロードします。
5. パッケージを解凍します。
6. 管理コンソールのソフトウェアを次のようにインストールします
   - クライアントで、`Addons/JavaInstallFiles` ディレクトリに移動します。
   - setup.exe ファイルをクリックします。

p.80 の「NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード」を参照してください。

p.84 の「CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。

# CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール

すべてのアプライアンスの構成が完了したら、次の手順で NetBackup appliance で使用する Windows クライアントまたは UNIX クライアントに NetBackup クライアントソフトウェアをインストールできます。ここでは、CIFS 共有または NFS 共有を介してソフトウェアパッケージをインストールする手順について説明します。

---

**メモ:** クライアントをインストールするには、インストールの前に、アプライアンスに NetBackup クライアントソフトウェアパッケージをダウンロードして、NFS 共有または CIFS 共有に保存していることを確認します。

クライアントのインストール用の共有は、次のとおりです。

NFS: `<appliance-name>:/inst/client`

CIFS: `¥¥<appliance-name>¥install`

---

## CIFS 共有を介した NetBackup の Windows クライアントソフトウェアのインストール

**NetBackup クライアントソフトウェアを CIFS 共有を介して Windows クライアントにインストールする方法**

1. クライアントソフトウェアが存在するアプライアンスで、管理者のクレデンシャルで NetBackup Appliance Shell Menu にログインします。
2. 次のコマンドを使い、CIFS 共有を開きます。

   ```
   Main > Settings > Share ClientInstall Open
   ```

3. NetBackup クライアントソフトウェアをインストールする Windows クライアントコンピュータで、管理者としてログオンします。
4. アプライアンスの次の CIFS 共有フォルダへのマップまたはディレクトリを開きます。

   `¥¥<`*`appliance_name`*`>¥install`

5. Windows の実行可能ファイル quickinstall.exe をクリックします。

   この処理で NetBackup クライアントソフトウェアがインストールされ、クライアントにアプライアンスマスターサーバーの名前が追加されます。
6. アプライアンスで、次のコマンドを使い、共有ディレクトリを閉じます。

   ```
   Main > Settings > Share ClientInstall Close
   ```

## NFS 共有を介した NetBackup の UNIX クライアントソフトウェアのインストール

**NFS 共有を使用して NetBackup クライアントソフトウェアを UNIX クライアントにインストールするには**

1. NetBackup Appliance Shell Menuで、管理者のクレデンシャルを使用してマスターアプライアンスにログオンします。
2. 次のコマンドを使用して、マスターサーバーアプライアンスの追加サーバーリストにクライアントのホスト名を追加します。

   ```
   Main > Settings > NetBackup AdditionalServers Add
   ```

3. 次のコマンドを使い、NFS 共有を開きます。

   ```
   Main > Settings > Share ClientInstall Open
   ```

4. NetBackup クライアントソフトウェアをインストールする UNIX クライアントホストで、ルートとしてログオンします。
5. 次の NFS 共有をマウントします。

   ```
   <appliance_name>:/inst/client
   ```

6. クライアントで、NFS 共有ディレクトリ内のファイルを参照します。次のファイルまたはディレクトリが表示されます。
   - NetBackup_8.1_CLIENTS2 や NetBackup_8.1_CLIENTS1
   - .packages
   - clientconfig
   - quickinstall.exe
   - PC_Clnt
   - docs
   - unix-client-install
7. クライアントで、テキストエディタを使用して次のファイルを開きます。

   ```
   /inst/client/clientconfig/defaults.txt
   ```

**8** ADDITIONALSERVERS エントリに、この NetBackup ドメインの 1 つ以上のメディアサーバーを追加します。ホスト名のみを使用して、メディアサーバーを指定します。複数のメディアサーバーを追加する場合は、カンマ区切りで列記します。

例:

```
MASTERSERVER=master123.test.com
ADDITIONALSERVERS=media1.test.com,media2.test.come,media3.test.com
```

---

**メモ:** クライアントホストのバックアップの作成に使用されているメディアサーバーを優先します。この NetBackup ドメイン内のメディアサーバーが不明な場合は、マスターアプライアンスで `Main > Settings > NetBackup AdditionalServers Show|ShowAll` コマンドを実行します。NetBackup 管理コンソールで、メディアサーバーを調べることもできます。

---

ファイルを保存して、エディタを終了します。

**9** クライアントの `/tmp` ディレクトリに NetBackup 応答ファイル (`NBInstallAnswer.conf`) を作成します。

例:

```
CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=<fingureprint_value>
AUTHORIZATION_TOKEN=<token>
```

応答ファイルとその内容について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

**10** 次の情報を使って `NBInstallAnswer.conf` に値を指定します。

```
CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=<fingureprint_value>
```

例 (読みやすくするために指紋の値はまとめられています):

```
CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=30:A5:9A:D1:18:F0:01:E4:21:E8:0D:A0:
26:95:14:52:7C:7A:58:B1
```

NetBackup 環境のセキュリティ構成によっては、応答ファイルに `AUTHORIZATION_TOKEN` オプションを追加する必要があります。

NetBackup の応答ファイルに関する追加情報を参照できます。

『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

CA 証明書の指紋と認証トークンに関する追加情報を参照できます。

『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

**11** `unix-client-install` スクリプトを実行します。

この処理で NetBackup クライアントソフトウェアがインストールされます。

**12** クライアントで次のファイルを確認します。手順 8 で `defaults.txt` ファイルに追加したメディアサーバー名が `bp.conf` ファイルに含まれていることを確認します。

```
/usr/openv/netbackup/bp.conf
```

**13** アプライアンスで、次のコマンドを使い、共有ディレクトリを閉じます。

```
Main > Settings > Share ClientInstall Close
```

p.80 の「NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード」を参照してください。

p.83 の「NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理コンソールのダウンロード」を参照してください。

# 索引


## 記号

アプライアンスのメディアサーバー
　マスターサーバーの構成による通信 30
シェルメニューを使用したパートナーノードの追加
　高可用性 72、77
シェルメニューを使用した高可用性構成の設定
　高可用性 60、64
ストレージの概要ページ
　アイコンの説明 36
デフォルトのパスワード 51
デフォルトのユーザー名 51
パスワード
　デフォルト 51
パートナーノードの初期構成
　高可用性 65
マスターサーバーの構成
　アプライアンスのメディアサーバーとの通信 30
ユーザー名
　デフォルト 51
初期構成チェックリスト
　NetBackup Appliance 25
初期構成ページ
　NetBackup Appliance Web Console 13
最大伝送単位サイズ
　の設定について 29
設定
　最大伝送単位サイズの 29

## C

CIFS 共有と NFS 共有
　NetBackup クライアントソフトウェアのインストール 84

## I

IPv4 と IPv6 のサポート 12

## N

NetBackup 53xx
　NetBackup Appliance Shell Menuを使用した初期構成 49
　NetBackup Appliance Web Consoleを使用した初期構成 33
NetBackup appliance
　initial configuration checklist 25
NetBackup Appliance Shell Menu
　DNS ドメイン名の設定 54
　DNS 検索ドメインの追加 54
　IPv4 または IPv6 IP アドレスの構成 53、69
　SMTP サーバー名の入力 57
　Test Hardware - サーバーとストレージの状態 52
　VLAN のタグ付け 56
　アプライアンスのホストファイルへのホストエントリの追加 55
　アプライアンスのホスト名の設定 55
　アプライアンスへの DNS ネームサーバーの追加 54
　アラートの構成 57
　アラートの電子メールの入力 57
　ゲートウェイ IP アドレスの構成 54、70
　ストレージプール名の入力 59
　タイムゾーンの設定 56
　ディスクプール名の入力 59
　ネットワーク構成 53
　マスターサーバーの特定 58
　日付と時刻の設定 56
　結合の作成 56
NetBackup Appliance Shell Menuからのアプライアンスへのアクセス 51
NetBackup Appliance Shell Menuを使用した初期構成
　NetBackup 53xx 49
NetBackup Appliance Web Console
　Call Home の構成 45
　ストレージの概要 36
　ストレージ構成 - AdvancedDisk 47
　ストレージ構成 - 重複排除 (MSDP) 47
　ネットワーク構成 - VLAN のタグ付け 38
　ネットワーク構成 - ボンドの作成 37
　ネットワーク構成 - 静的ルートの追加 39
　パスワードの変更 42
　ホストの構成 - DNS または DNS 以外 40
　マスターサーバーの特定 46
　初期構成ページ 13
　日付と時刻の設定 42

構成の概略 48
構成の進捗状況 48
警告の構成 - SNMP と SMTP のサーバー構成 43
NetBackup Appliance Web Consoleからのアプライアンスへのアクセス 35
NetBackup Appliance Web Consoleを使用した初期構成
NetBackup 53xx 33
NetBackup クライアントソフトウェア
CIFS 共有と NFS 共有を使ったインストール 84
NetBackup 53xx 初期構成
ガイドライン 5
NetBackup アプライアンス
NIC1 (eth0) ポートの使用 79
NetBackup アプライアンスで
NIC1 (eth0) ポートの使用 79
NetBackup 管理コンソール
NetBackup のアプライアンスから Windows コンピュータへのダウンロード 83
NetBackup クライアントパッケージ
NetBackup のアプライアンスからダウンロード 80
NetBackup のアプライアンスから NetBackup クライアントパッケージをダウンロード 80
NetBackup のバージョンの互換性 11

## W

Web コンソールを使用したパートナーノードの追加
高可用性 72〜73
Web コンソールを使用した高可用性構成の設定
高可用性 60〜61

## か

ガイドライン
NetBackup 53xx 初期構成 5
コマンドの制限
構成されていないアプライアンス 12

## さ

初期構成チェックリスト
概要 24
接続
初期構成中 5

## た

高可用性
構成ガイドライン 9
ディスクストレージオプションのライセンス 11
デフォルトのパスワード 6
デフォルトのメンテナンスユーザーパスワード 7
デフォルトのユーザー名 6
デフォルトのログインのクレデンシャル 6

## は

パスワード
デフォルト 6
必須の名前とアドレス
初期構成のため 6
ファイアウォールポートの使用 7

## ま

メディアサーバーの役割 8

## や

ユーザー名
デフォルト 6